（昭和44年4月21日 第三種郵便物認可）　毎週水曜日発行　第2643号

日本水道新聞社 特設サイトでデータ版公開

就職活動応援特集

日本下水道新聞／日本水道新聞共同編集

日本下水道新聞

発行所
日本水道新聞社
https://www.suido-gesuido.co.jp/
本社：
〒102-0074 東京都千代田区九段南4-8-9
☎03(3264)6721㈹ FAX 03(3264)6725
下水道編集部直通 ☎03(3264)6393
E-mail:g-pen@suido-gesuido.co.jp
大阪支社：
〒541-0051 大阪市中央区備後町3-3-9
☎06(6125)3630 FAX 06(6125)3866

水ing
新卒採用サイト▲

2022冬 就職活動応援特集

水の仕事のススメ

社会を支えるインフラの守人

就職活動に悩みはつきものだ。自らの将来を見据えたキャリア選択に絶対の正解は無く、目まぐるしい社会環境の変化に不安を覚える学生も多いだろう。コロナ禍を経て、生活様式に加えて、仕事に対する価値観や働き方など、従来の当たり前が劇的に変わった。その中でも、社会経済活動を止めずに継続させるべく、社会を陰で支えるインフラの重要性は変わらない。地球上で生きとし生けるものに欠かせない「水」は、まさにその一つで、これを守るために働く人々の姿が今日も現場にある。本特集では、日本国内、そして世界の水道・下水道を支える24社への取材を通じて、水の仕事に従事する人々の姿を紹介する。水の仕事に触れ、その多面性や実像を知ることが、水の仕事への興味から学びへとつながる。この機会に、その魅力を感じてほしい。

安心・安全を届ける
変化する環境に挑む

特集の目次

若手社員の1日……16面
東京都下水道サービス

各社が誇る、現場で活躍する社員……17~23面
足立建設工業、安部日鋼工業、ヴェオリア・ジェネッツ、荏原実業、オリジナル設計、極東技工コンサルタント、クリアウォーターOSAKA、栗本鐵工所、三機工業、三水コンサルタント、水ingエンジニアリング、住友重機械エンバイロメント、大成機工、月島機械、月島テクノメンテサービス、東京設計事務所、日本ヒューム、日本水工設計、フソウ、前澤工業、真下建設

人事・採用担当者に聞く
ＮＪＳ、東京水道……24面

就活ガイド
上下水道Ｑ＆Ａ……24面
水の仕事に興味を持ったら知っておきたい業界の動向…25面
上下水道関係企業 採用スケジュール……26~28面
上下水道業界マップ……29面
学識者に聞く 水業界と学生をつなぐ視点……30面

地域の数だけアンサーがある。
Answers for Community

水が合う。そんな言葉があるように、「水」はコミュニティの象徴。
水と向き合うわたしたちFUSOもまた、コミュニティと向き合いたい。
そう考えます。まずは地域に馴染むこと。
そこで見えてくる課題に、プロとしてのアンサーを。
ひとつひとつの地域を潤しながら、世界をよりよい場所へ。
わたしたちのアンサーに、終わりはありません。

水をつくる、いかす、考える。
FUSO

株式会社フソウ　〒103-0022　東京都中央区日本橋室町2丁目3番1号　03-6880-2110　www.fuso-inc.co.jp

ライフラインを支える使命
環境事業・バルブ事業・メンテナンス事業を通して、
水環境の今を守り未来を支えてまいります。

環境事業
バルブ事業
メンテナンス事業

前澤工業株式会社
〒332-8556 埼玉県川口市仲町5-11　TEL:048-251-5511　FAX:048-251-9375
http://www.maezawa.co.jp

若手社員の1日

東京都下水道サービス

技術部 設計技術管理課 設計積算担当 主事 **坂東 和将**さん

ベストミックスな環境で成長

下水道事業を支える設計・積算

■東京下水道の専門技術者集団

東京都下水道サービス（TGS）は、東京都の政策連携団体として、東京都区部において都と一体的な事業運営を行い、下水道サービスの維持向上に努めている専門技術者集団だ。行政、民間企業の資金、技術力を融合し、1984年に創立して以来、東京都下水道局のベストパートナーとして企業活動に取り組んできた。東京都からの受託業務は、下水道管きょの維持管理や設計・施工管理、水再生センター・ポンプ所施設および汚泥処理施設の運転管理や保全管理、下水道の調査研究など多岐にわたる。

坂東和将さんは、平成28年4月に入社。約4年半にわたって管路部文京事業所や品川事業所で下水道管きょの維持管理業務を担当した後、令和3年度に本社技術部設計技術管理課へ異動。現在は、東京都下水道局の工事発注に必要な資料作成を支援する一員として、下水道管きょ再構築工事や改良工事などの設計補助業務と設計書作成補助業務に従事している。東京都下水道局が工事を発注する上で重要な、コンサルタントへ委託する設計業務の指導や、設計に基づく適切な積算を行うには、幅広いノウハウが不可欠だ。TGSは設計・積算を熟知する下水道のプロとして、より適切な工事発注を目指して支援している。

■サポート業務の重要性

設計補助業務では、コンサルタントが下水道管きょ内の目視調査や地盤高の測量、維持管理の履歴や劣化・損傷状況などの収集整理した資料に基づき適切な設計を行えるよう指導する。具体的には、コンサルタントが「管きょ再構築設計の手引き」や地域の特性によって異なる整備方針を参考に、設計方針を検討しているかどうかを確認する。また、都やコンサルタントの担当者とともに設計方針の検討を行い、修正すべき点などを共有し、適切な設計資料を作成する。設計書作成補助業務では、都から受領した設計図面を基に、都下水道局発行の「積算基準」をはじめとする図書や資料に基づいて、都が発注する入札予定価格を決めるための設計数量計算書と設計書データを作成する。この積算作業の一部も坂東さんの業務だ。工事発注に必要な資料を適正かつ迅速に作成することで、積算業務の効率化と設計書の品質確保を図ることができる。補助業務とはいえ、こうしたひたむきな確認作業が都下水道局の事業を支え、都民の安全・安心につながる。

TGS本社は7月から新オフィスに

■研ぎ澄まされる感覚

異動後、初めて担当したのは、下水道管きょの耐震化工事の設計書作成補助業務だった。液状化現象によるマンホールの浮上抑制技術であるフロートレス工法による工事や取付管の補修など、多工種にわたる工事の設計書作成だった。坂東さんは、「さまざまな工法だけでなく、設計や積算において根拠となる図書や基準などを覚えることはとても大変でした。ただ、困難な初仕事を乗り越えたことが自信につながったと感じています。さらに業務経験を重ねていくと、あの図書のあのページに根拠が書いてあったな、などと感覚を掴めるようになって、自分の成長を実感できます」とこれまでを振り返った。

1日のスケジュール〈オフピーク通勤実施中〉

8:00	始業 メールチェックと返信
8:30	コンサルタントから届いた資料や図面の確認 打ち合わせの日程調整
12:00	昼休み
13:00	午後の業務開始 設計数量計算書作成、設計データの作成適宜、局および関係者との打ち合わせなどを行う時には周辺環境を含めた地上部の確認のため現場に足を運ぶ
16:45	終業

■安心して働ける環境

徳島県出身の坂東さんは、阿南工業高等専門学校で土木工学を学んだ。徳島市役所のインターンシップで下水処理場を見学したことがきっかけとなり下水道事業への興味が湧き、担当教員の紹介を受け、TGSへ入社。

TGSの特徴として、局OB社員や都からの派遣社員、多様な民間業種出身の固有社員など、さまざまな経歴の社員によるベストミックスなサポート体制が整っていることを挙げた。「周りは東京都の下水道に詳しいベテランの方ばかりなので、アドバイスをもらいながら柔軟に業務を進めていくことができます。私自身もそうでしたが、学生時代に下水道にあまり触れてこなかった方も安心して働けるのがTGSですね」。

水の仕事を知る

就職活動応援特集掲載企業ひとことPR

若手社員の1日

下水道で、社会の“あたりまえ”を支える	東京都下水道サービス株式会社	16面

各社が誇る、現場で活躍する社員

水が流れる、その先に	足立建設工業株式会社	17面
PCに特化し社会インフラ構築に貢献します	株式会社安部日鋼工業	17面
上下水道事業に新しいソリューションを	ヴェオリア・ジェネッツ株式会社	17面
「事業の幅広さ」「一気通貫の仕事」が魅力	荏原実業株式会社	18面
「ウェルビーイング」な会社です	オリジナル設計株式会社	18面
役職を超えた風通しの良さと幅広いサポート	株式会社極東技工コンサルタント	18面
下水道の未来を支えるそれが私達の使命です	クリアウォーター OSAKA 株式会社	19面
インフラと産業設備革新で社会を支える	株式会社栗本鐵工所	19面
よい仕事は、よい環境から。	三機工業株式会社	19面
技術と信頼で水インフラを守り社会に貢献する企業です!	株式会社三水コンサルタント	20面
「水」に関わる全ての課題解決に貢献する	水 ing エンジニアリング株式会社	20面
入社後の研修が充実しており、しっかりと水処理の勉強ができます	住友重機械エンバイロメント株式会社	20面
管路メンテナンスのトータルコーディネーター	大成機工株式会社	21面
メーカー機能もあり高い技術力が特徴です。	月島機械株式会社	21面
環境と持続可能な社会に大きく貢献する専門企業	月島テクノメンテサービス株式会社	21面
誠実を旨に技術者を育て良い作品を残します	株式会社東京設計事務所	22面
下水管であるヒューム管のシェア No.1	日本ヒューム株式会社	22面
活気があり風通しの良い社内の雰囲気	日本水工設計株式会社	22面
社会インフラを支える水の綜合企業	株式会社フソウ	23面
若手であっても様々な業務に挑戦が出来る!	前澤工業株式会社	23面
人と自然の調和を目指して	真下建設株式会社	23面

人事・採用担当者に聞く

水インフラを支える社会貢献度の高さ	株式会社NJS	24面
安定した事業基盤、充実の福利厚生!	東京水道株式会社	24面

和で築き、技で育むTGS

東京都下水道サービス株式会社（TGS）は東京都下水道局のパートナーとして、
東京都の下水道事業を補完・代行するため、社員が一丸となって下水道サービスの維持向上に努めています。

これからもTGSは、確実な維持管理と革新的な技術でお客さまの信頼に応え、社会に貢献していきます。

東京都下水道サービス株式会社　〒100-0004 東京都千代田区大手町2-6-3 TEL 03-3241-0711 https://www.tgs-sw.co.jp

就職活動応援特集

各社が誇る、現場で活躍する社員

都民を守る誇りある仕事

足立建設工業
技術開発部
前田　賢さん

■オーダーメイドの設計

大学の建築系学科を卒業後、足立建設工業に入社し、今年で3年目になります。所属する技術開発部では、古くなった下水道管をリニューアルさせる更生工法の一つである「SPR工法」に使用する資機材の設計を担当しています。

SPR工法では、既存の下水道管の内部に樹脂製の更生材料をらせん状に巻きつける方法を取るのですが、この巻きつけを行うために下水道管の形状に合わせた鉄製のガイドが必要になります。下水道管は、円形だけでなく、馬の蹄のような形をした「馬蹄きょ」、長方形の「矩形きょ」などさまざまな形状があり、そのガイドも下水道管の形状に合わせたオーダーメイドになります。

■現場と密に連携

設計自体は2日程度で完了しますが、その前段階として、現場を担当する社員が地中の下水道管内に入り、サイズや線形および異常個所などを図面化できるよう詳細に測量して、データを収集しています。これを基に本設計前に下書きを作成し、実際の現場で使用が可能かをチェックして、初めて設計に取り掛かります。工事が始まってしまってからではやり直しがきません。事前に現場の担当者とコミュニケーションを図ることが重要です。

また資機材はマンホールから下水道管内へと運び入れますが、直径が60㌢程度しかありません。そのため資機材を分割できるように設計していますが、強度が大丈夫かを確認するのはもちろん、下水が流れる中で作業がしやすいように足元付近の部品はなるべく分割しないようにするなどの工夫も必要になります。

■誇り高い仕事

就職活動ではゼネコンなどを中心に企業を探していました。その中で当社を選んだ決め手は、建築工学の知識を生かせることと、都民のために働くことのできる職場環境でした。

就職は都内でと考えており、本社が都内で全国転勤がない当社はぴったりの存在でした。また、建設業は休みが少ないイメージがあると思いますが、年間休日は115日と建設業の中では多いと思います。また休日出勤時の代休の取得はもちろん、その他、福利厚生等も充実しています。

最近では、これまで手作業で行っていた管内の測量業務を、3Dレーザースキャナーで置き換えられないか検討を進めており、現場が働きやすい環境も整えようとしています。

多くの下水道管が老朽化していく中、この仕事はなくならないものであり、そして都民の生活を支える下水道を守る、誇りある仕事ができる職場です。ぜひ一緒に働いてみませんか。

人とつながり、学びを広げる

ヴェオリア・ジェネッツ
北陸支店高岡営業所
藤井　栞奈さん

■インフラを人で支える仕事

結婚を機に高岡市内で暮らし始め、仕事を探していた中、求人情報にあった「水道」の文字が目に止まったことがヴェオリア・ジェネッツとの出会いでした。漠然としたイメージを持って始めた水道の仕事でしたが、入社4年目を迎え、さまざまな経験をする中で、日常生活に必要不可欠なインフラを支える責任や重要性を改めて感じています。

入社後は検針業務を中心に行っていましたが、現在は検針業務を含めたカスタマーサービス全般を担当しています。慣れない土地で、初めて知ることも多く、当初は戸惑いもありましたが、先輩からの丁寧な指導のもとで経験を積み重ねてきました。人とコミュニケーションを取ることが好きなので、お客さまや高岡市上下水道局の皆さまなど、多くの方々と関わることができるこの仕事に楽しさを感じています。

■聞くことを大切に

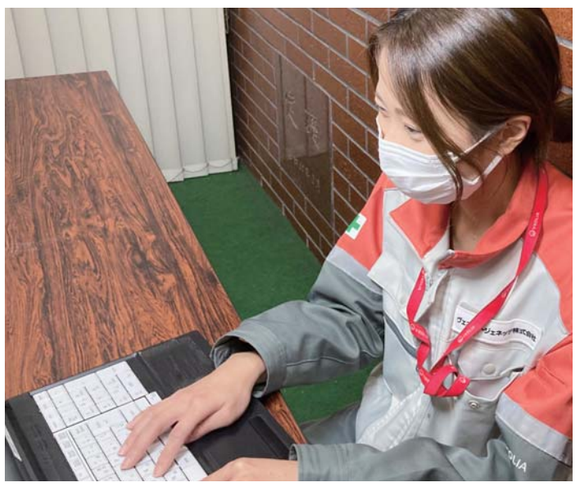
お客さまから受けるお問い合わせの対応や、検針値に異常が確認された場合の訪問の際には、お客さまの思いを汲み取ることを一番大事にしています。不安を感じているお客さまも多くいらっしゃるので、その声に耳を傾け、質問等も交えながら状況を十分に理解した上で、わかりやすい説明をするように意識しています。やりとりを重ねる中で、接客のスキルや水道業務への理解が向上し、業務の改善や後輩社員へのサポートにも生かされていると感じます。

一番うれしい瞬間は、お客さまから「安心した」「ありがとう」と言っていただけた時です。一人ひとりのお客さまと真摯に向き合い、信頼関係を構築していくことが、自身の成長にもつながっていると実感しています。

■働きやすく、学べる環境

出産後に復職をしましたが、育児休暇や時短勤務など女性が働きやすい制度や環境が整っていると感じます。子どもの行事参加などにも理解がある職場で、仕事をしながら家族との時間もきちんと確保できることはありがたいです。

また社内研修等も充実していると思います。幅広い分野の知識が身に付くだけでなく、全国の営業所や他の事業部の社員との交流機会もあり、地域や業務内容ごとの特性に触れることで新たな発見があり面白いです。



以前、家族でシンガポールに旅行したときに「Veolia」のロゴを見かけたことがあります。世界中でさまざまな事業を行う会社の一員であることを誇らしく感じたのを覚えています。

高岡から全国、世界へと視野や学びを広げていけるのも当社の魅力の一つです。

水を仕事にする魅力、やりがい

安部日鋼工業
東北支店工事部工事課
八幡　康喜さん

PC技術に魅せられて

■技術に魅せられ

安部日鋼工業を象徴する「プレストレストコンクリート（PC）技術」に魅せられ、入社を決めました。従来のコンクリートは引っ張る力に弱く、温度変化などで膨張（収縮）、ひび割れが発生してしまうことが最大の弱点でした。PCはその弱点を克服するため、引っ張る力に抵抗できるようあらかじめ圧縮した力をコンクリートに加えています。学生時代に参加した安部日鋼工業の現場見学会でPC構造物と出会い、このようなコンクリートがあるのかと、感動したことを覚えています。工学部でコンクリートについて勉強していたので、その技術力を保有する当社に興味を持ちました。また、当社には学科のOBが就職していたため、心強く感じました。このことも入社を決めた要因の一つです。

■憧れたPC構造物を

入社6年目を迎えますが、現場は毎日学ぶことばかりです。現在は宮城県栗原市で、PCタンクの施工をしています。現場代理人を務めるのは今回で2回目ですが、PCタンクの現場は初めてです。自分の出身地で学生のころに見たPCタンクの建設の指揮を自身の出身地方で取っていることに静かに興奮しています。ただ、変化の多い建設現場での施工管理はやっぱり難しいです。初めての連続ですし、昨今の情勢に対応する柔軟な工程を組まなければならず、苦戦していますね。わからないことは先輩社員や現場に入る業者さんたちと積極的にコミュニケーションを取ることで解決し、現場を安全かつ円滑に進められるように努めています。ほかにも、私は1級土木施工管理技術者の受検に必要な実務経験年数をもう少しで満たすため、資格取得に向けて試験勉強を頑張っています。

私は入社後2年ほど設計部門に所属していたため、現場での経験を積んでいる最中です。すぐに現場に出た人と比べると、少しだけ技術面で焦りを感じることもありますが、設計部門での経験はPCの内部構造まで理解を深めることができた自分の財産だと捉えています。

■特殊な技術でまちを支える

会社は若手に学びの場を広く提供してくれます。私自身、入社直後の設計部門、現場配属後2年目に東京支店へ1年間の出向、上下水道関係だけでなく橋梁など、さまざまな経験ができています。いきなり現場に入るので戸惑いますが、分からないことを聞けるベテランの先輩、困ったことや大変なことを話せる同僚がいるので、やる気があれば大抵のことは大丈夫。経験は結果的に自身の糧になると身をもって感じています。

自分のやっていることがカタチになる。これは土木工事に携わる人の原動力の一つではないでしょうか。PC技術という特殊な土木工事に携われるとともに、その構造物がそのまちを支えるインフラとして残る、当社の魅力はここにあると思っています。

SHI
Creating
the Future of Water
私たち住友重機械エンバイロメントは、
水処理のトータルソリューションカンパニーとして、
お客様の満足のために、水と人の未来のために、
より一層尽力してまいります。
住友重機械エンバイロメント株式会社
本社　〒141-0031　東京都品川区西五反田7丁目10番4号（ルーシッドスクエア五反田）
電話　03（6737）2700　URL　https://www.shiev.shi.co.jp/

Water
Air
Ground
私たちには、水と空気、
そして緑の大地を「守る技術」があります。
地球と一緒に深呼吸
EBARA 荏原実業株式会社　www.ejk.co.jp
【本社】〒104-8174 東京都中央区銀座 7-14-1　TEL: 03-5565-2881　FAX: 03-5565-2894

水を仕事にする魅力、やりがい

地域のホームドクターに

オリジナル設計
関西支店 石川技術課
益 一平さん

■変化する働き方

大学では、環境工学を専攻して下水処理の研究をしていました。研究室の教授が上下水道コンサルタント会社の出身ということもあり、将来のキャリアをイメージしやすかったことが水を学んだきっかけの一つでした。オリジナル設計との出会いはウェブサイトを調べて電話し、会社説明会に参加したことが始まりでした。仕事内容に興味を持ったことが第一でしたが、上場企業であり、福利厚生が充実していることも入社の決め手になりました。

先生や先輩方が語るコンサルタントの仕事内容から、資料に囲まれながら多忙を極める仕事をイメージして就職しましたが、想像は良い意味で裏切られました。当社は「ウェルビーイング経営」を掲げ、業務改革に取り組んでいます。席がフリーアドレス化されるなど社内環境は大きく変わり、休暇取得や健康管理ツールの活用など働き方改革が劇的に進んでいます。育児、プライベートとの両立もしっかりできています。

■地域のホームドクターに

大阪事務所での4年間の勤務を経て、石川事務所に転勤し今年で社歴は8年目です。

大阪事務所時代に初めて担当した宅地造成地域の下水道管きょ設計は、技術者としてステップアップできた貴重な経験でした。先輩方のサポートのもとで、管きょの実施設計に関わる業務全般のノウハウ、お客さまとの接し方などを身につけることができました。近年は社内の年齢ギャップも埋まり、年齢の近い社員が親身に相談に乗ってくれる体制が一層整っています。

石川事務所では、自治体の下水道事業全般をサポートする仕事を経験しています。事務所の営業・技術、そして全社的に有するノウハウが一体となって計画、経営を含めた自治体支援を担う「ホームドクター」としてのやりがいを感じています。将来は、こうした経験も生かしながら、総合的にお客さまの課題に向き合える技術者になれるように成長していきたいと思います。

現在、技術士の資格取得に向けた勉強に励んでいます。社内には多彩な資格の有資格者が多くおり、キャリアアップの社内サポートも充実しています。就職活動期は不安も大きいと思いますが、ぜひ当社に飛び込んでもらいたいと思います。

多様な製品で最善の提案

荏原実業
関東支社 係長
大澤 弘樹さん

■信頼に応える

荏原実業は、上下水道のポンプ機器などを取り扱っている企業で、メーカー、エンジニアリング、商社の3事業を柱としています。私は、エンジニアリング事業で下水道メインの営業と施工管理の両輪で仕事をしており、昨年までは神奈川県の湘南エリアを担当していました。今年から出身地でもある埼玉県内がメインとなり、「やりがいと楽しさ」を感じながら、川上から川下の施設整備に携わっているところです。

私たちが扱うポンプ機器は通常、計画となってから実際に導入されるまでに5年程度かかるのが一般的です。頻繁に交換される機器ではないため、特に営業においては、後にも先にもお客さまが納得できる製品提案を心掛けることが重要になります。オーダーメイドのように要望に応えて最適な製品提供を目指すという意味では、「お客さまファースト」を意識する仕事かもしれませんね。

■失敗を次に生かす

今年で入社11年目になります。就職活動中に東日本大震災を経験し、上下水道分野に絞りながらも先行きが不透明な中で就職先を探していたことを覚えています。研修直後から3年間、上司に随行して現場代理人を務めたことは、今でも印象深い出来事です。

苦い記憶になりますが、入社2年目に経年劣化した水道用のポンプを交換する工事の最中、私の監督不行き届きによる施工ミスで工程が遅れたことがありました。この時は上司のおかげで最小の被害で防ぐことができましたが、「一つのミスがあまりに多くの人を巻き込むような大きな事態を引き起こす」と身をもって知った瞬間でした。この時に上司から教わった「あらゆる事態を想定して事前にどれだけ段取りを組むか検討する」という考えは、現場の本質を学ぶきっかけになりました。

■最適な製品を提供

上下水道は、日常生活に欠かせないインフラだからこそ、幅広い分野で社会貢献に興味を持っている人に勧めたいと思っています。上下水道と一口に言っても、川の水を取るところから蛇口に届けるまでのあらゆる段階でさまざまな人達が活躍しています。

中でも当社は、水処理施設に関する製品を広く扱っています。自社製品に限らず、多様なメーカー製品の発注も含めた総合的な判断の下、お客さまが望むベストな製品をあらゆる角度から検討・提案・実現できることが当社の魅力であり、強みだと考えます。

社の窓口として楽しむ姿を

極東技工コンサルタント
東京本社総務部
伊藤 沙紀さん

■派遣社員から正社員に

私は昨年10月から、派遣社員として極東技工コンサルタントで働き始めました。その後、すぐに正社員にならないかと声をかけてもらい、今年の2月から正社員として、東京本社総務部で人事・採用業務に携わっています。当社に入るまでは、洋菓子店やIT企業で勤務していました。

当社で正社員になると決めた理由は、派遣社員の頃から皆がとても温かく親切で、困ったことがあれば、すぐに相談に乗ってくれるような社内の雰囲気に惹かれたからです。

現在は、採用の窓口として、新卒、中途採用ともに面接日程の調整や入社までのサポート、内定式・入社式の準備、大学訪問、下水道広報プラットフォーム（GKP）への参加などに取り組んでいます。

■上司からの「ありがとう」

初めて任せてもらった仕事では、上司から「ハローワークに求人を掲載しているのに全然応募がない。求人情報をリニューアルしてほしい」と言われました。前職でも人事・採用業務に携わっていた経験を生かし、自分だったらどんな求人に惹かれるか考え、リニューアルを行いました。その結果、条件などは変えていないにもかかわらず、応募数が5倍ほどに増え、上司から「ありがとう」と言われたことは今でも忘れません。

■ぶれない軸持ち続けて

学生の皆さんには、自分の軸がぶれない選択をするようにと伝えたいです。私自身、いろいろな業務を経験する中で、就職・転職前後の不安な時期をサポートできるという点から人事・採用業務に一番やりがいを感じていたので、その軸がぶれないように転職活動をしました。

当社は部署関係なく助け合い、上司や先輩が何でも丁寧に教えてくれるという本当に温かい会社で、働きやすい環境が整っています。どの会社も実際に入社してみないと雰囲気はわかりませんが、当社では先輩社員と話したり、お仕事体験ができる「1DAYインターンシップ」も実施しています。「水コン」に少しでも興味のある方はぜひ応募してみてください。

人事・採用担当は、学生や転職者がその会社で初めて会う人です。私が辛そうに仕事をしていては、会社にいいイメージを持ってもらうことはできません。そのことに気付いてからは、「とりあえずやってみよう！」の気持ちで、まずは自分自身が仕事を楽しむことを心がけています。

就職活動応援特集

各社が誇る、現場で活躍する社員

縁の下の下の力持ち

クリアウォーターOSAKA
事業部 設備企画課
稲木 敦哉さん

■インフラ維持管理に興味

高校卒業後就職し、転職でクリアウォーターOSAKAに入社し6年目になります。以前は電力会社に勤め、当社にも電気職として採用されました。上下水道の専門知識がないので、最初は下水処理場の中にこれだけ多くの電気設備があるのかと驚きました。もともとインフラの維持管理の仕事を志望していましたが、電力会社とはまた違う分野で人々の生活を守る大切な仕事ができていることに誇りを持っています。

■より使いやすいシステムに

3年目から現在の部署に所属となりましたが、社内で使用している設備系システムの業務改善、点検、修繕、保守などを手掛けています。例えば、処理場では電気設備や機械設備がきちんと作動しているかどうかの点検を行い、点検の内容などを日報・月報として作成しますが、それらの出力方法は紙だったりデータだったりとさまざまです。この様式を統一した方が、施設の維持管理を担う部署の人たちにとってはより使いやすくなります。こういった社内からの意見や要望を聞き取り、監視装置のメーカーとの打ち合わせを通じて業務改善につなげるのが現在の主な担当業務です。水道や下水道の仕事は「縁の下の力持ち」とよく言われますが、その縁の下の力持ちをさらに下支えするような仕事といえるかもしれません。

具体的には、処理場の要を担う土木や施設といった他部署の人とのコミュニケーションが主です。そのほかにも、現場の困りごとは会議の後や上司同士の会話といったふとした瞬間に発見されることも多いです。時にはシステム異常など、緊急性のある仕事が突発的に舞い込んでくることもあります。

■楽しく仕事を

異分野からの入社ということもあり、下水道の仕組みや役割など基礎知識を一から学ぶことからのスタートでした。現場の仕事を覚えるので精いっぱいで、今思うとその頃が一番大変だった気がします。わからないことはとにかく先輩社員に聞くことを繰り返していました。

当社は5年前に誕生した大阪市100%出資の企業で、市からの転籍社員が多数ですが、近年は私のような若手のプロパー社員も増えてきています。下水道は土木・機械・電気などさまざまな分野から成り立っていて、さまざまな分野の方が活躍できる業界です。楽しく、でも無理はせずに、一緒に働くことができる方をお待ちしています。

信頼と安全を積み重ねる

三機工業
環境システム事業部 技術部
技術1課 主任
伊奈 大輝さん

■社員の人柄に魅力を感じ

学生時代は、大学で機械工学を専攻しました。環境分野にも興味関心があったことから、環境分野に携わっているプラントメーカーを中心に就職活動を行っていたところ、企業説明会の担当者の人柄に惹かれ、平成25年に入社しました。

入社当初は、水処理の設計部門の配属となり、北海道から九州まで全国の下水処理場の設計、納入、試運転に従事しました。その後、5年目からは現在の部署に異動となり、今度は現場代理人として、設計部門が作成した図面を基に全国の下水処理場および浄水場で実施する機械の据付工事現場の労務・安全・工程・品質管理や予算の調整等を行っています。

■丁寧なコミュニケーションが肝

工事現場は、一つの案件で約半年から1年ほどかかります。今現在は20人程度の作業員やお客さまと綿密なコミュニケーションを取りながら信頼関係を構築し、お客さまの求める品質になるよう工事を進めることが肝となります。工事の進捗状況については、都度お客さまに対し、写真や表を用いながら説明を行うことで、異なる視点でも誤解が発生しないよう心掛けています。

工事終了後は本社に戻り、工事の撤収作業とすでに決まっている次期工事の準備等を行い、工程に遅れが出ないように調整をしなければなりません。

業務を行う上で疑問や課題に感じたこと等は、現場にいる先輩に聞いたり、定例の会議などを通じて、気軽に相談できる環境が整っています。このように、私が入社前に魅力に感じた当社で働く人の良さというのは、日々働きながら感じているところです。

■異なる視点を取り入れる

実際に入社して感じたことは、学生と社会人が企業を見る視点というのは、大きく異なるということです。ミスマッチを起こさないためにも、志望している企業で働いている方にお話を聞くのは大切なことだと思います。

同じ会社の方でも人によって感じている魅力が異なりますので、多くの社会人の話を聞いた方が、より自分に合った企業選びができると思います。当社の場合、人柄の良さが魅力の一つでもあるので、ぜひ一度企業説明会やイベントに足を運んでいただき、当社社員と話をしていただきたいです。そして、共感してもらえたなら、入社して一緒に働きたいと思います。

明るく熱心な環境の中で

栗本鐵工所
パイプシステム事業部
西部営業部名古屋営業課
松本 太明さん

■面接で好印象を持ち経験が活きる

私は今年3年目になりますが、東海エリア2県の上下水道を担当しています。担当エリアは非常に広く、さまざまな所に出向き、人と関わるのを楽しみつつ仕事をしています。

現在、水道事業者のお客さまのデザインビルド（DB）方式に対する関心は非常に高いです。事業体さまの課題を聞きつつ、一緒になって解決できるよう取り組んでいます。

また、下水道事業のお客さまに対し、腐食に強い内面エポキシ粉体塗装のダクタイル鉄管の説明をはじめ、国の交付金制度導入状況などを事前調査し、下水道管路の耐震化やネットワーク化を検討中の事業体さまにもダクタイル鉄管のPRをしています。2年目に自治体やコンサルタント、販売店などさまざまなお客さまの所へ足を運び営業活動をした結果、ダクタイル鉄管の良さをご理解いただき、当社で受注できた時は非常に嬉しかったですね。この経験は、水道営業にも活かせています。

■社内の熱い人間関係

当社には「ブラザー制度」という入社してから半年間の教育制度があります。先輩社員がマンツーマンで業務内容のみならず、社会人としての心構えなど、実に多くのことを熱心に教えていただくもので、入社し配属してからの半年間で教わったことは間違いなく社会人としての礎となっています。

私の性格上、色々な方と交流するのが好きなので、社内での飲み会や名古屋支店の若手メンバーでキャンプ等に出かけ平日・休日ともに充実した生活を送っています。

■上下水道を支える責任感

上下水道の仕事は、欠かせないインフラを支える責任感を感じることができる仕事です。「エッセンシャルワーカー」として未来の上下水道のために貢献したいという方、明るく熱心な私たちがお待ちしています。

水を仕事にする魅力、やりがい

技術力向上へ吸収の日々

三水コンサルタント
西日本事業本部 西日本事業部
技術第二部
田中 智大さん

■身近な水を仕事に

三水コンサルタントは社名が水道・下水道・工業用水道の三つの水に由来するように、水に関わる設計・計画を専門とするコンサルタント会社です。私は主に下水道管きょのストックマネジメント計画および耐震診断における基本設計・詳細設計を担当しています。

この会社に決めた理由は、インターンシップに参加した際、体験した業務内容に非常に興味を持ったことに加え担当者に丁寧に対応していただいたことです。インターンシップでは、業務遂行に必要な業務計画書の作成を手伝わせていただきました。担当者に、基礎から作成方法を教えていただき、作業を通して業務の全体像を知ることができました。その業務は非常にやりがいのある内容で、作業現場へ赴く姿を想像すると胸が高鳴る思いになったことを覚えています。

大学では、環境を専攻しました。それは子供の頃より自然の多い場所で育ち、その自然をもっと学びたいと考えたからです。都市化が進んだ現代社会の中、都市以外の地域にも目を向け、その人々のくらし、水環境を守っていく三水コンサルタントへの入社を決意しました。

■全員で技術力向上

私は入社1年目です。専門用語が多く使われる業務環境において、まだまだ分からないことばかりで同じ部署の先輩の指導を受けながら、とにかく勉強して知識を吸収する毎日です。日々大変ではありますが、インターンシップに参加した時と同様に先輩方に分からない箇所を聞くと、分かるまで親切に教えていただけます。

技術力の向上を目的に、社内勉強会に参加しています。その勉強会は、上司が出題する問題を解いていくというスタイルです。黙々と勉強し続けるというよりは、みんなでその問題について議論し、解答を作成します。入社1年目の私でも積極的に議論できる雰囲気のため、他の部署の方と交流を深めつつ、技術力を向上できる良い機会をいただいています。

現在は、技術士補の資格試験に向けて勉強しています。会社の多くの技術士から受験のアドバイスやコツを聞くことができ、先輩や同期の方とともに合格に向けて日々切磋琢磨しています。

■実際に会社を訪れて

私の大学生活の後半2年間は、研究室での実験以外はほとんどオンラインで過ごしました。だからこそ、就職活動では、インターンシップで実際に会社を訪れて、社員の方が実際に業務をしている様子やオフィスの雰囲気を肌で感じることができてよかったと今でも思います。就職活動をされている皆さんには、ぜひそういった機会で情報も得ながら、自分自身の働く姿のイメージを膨らませることを大事にしていただきたいと思います。

幅広さと先進性に魅力

水ingエンジニアリング
エンジニアリング本部総合提案営業統括部
ソリューション営業部
辻村 貴明さん

■鬼怒川で見たもの

平成27年秋、私が高校2年生の時に豪雨で堤防が決壊した鬼怒川のがれき回収のボランティアに参加しました。被災地では、「水」は生物の命を育むものですが、一方で多くの命を奪う、危険に晒すものにも変わるということを体感しました。そこから大学入学までは「水」による災害から人々の命を守る「治水」に興味を持ちました。

その後、大学へ進学しさまざまな講義を受ける中で、「水をきれいにすること＝浄化」に興味を抱き、水に関わる業界に就職したいと考えるようになりました。こうした中、水ingエンジニアリングを選んだ理由は、総合水事業会社の強みを生かした幅広い事業を手掛けており、国内初の官民連携事業といった新たなビジネスモデルを展開していることに魅力を感じたからです。

■エンドユーザー＝地域住民

現在入社2年目で、総合提案営業統括部ソリューション営業部に所属しています。1年目は日本下水道事業団（JS）の案件に携わっていたのですが、その際に初めての案件受注を経験しました。社を挙げて勝ち取った案件ということもあり、先輩たちの苦労を目の当たりにしていたころから、とても嬉しかったことを覚えています。

今年度からは、事業型案件をメインに、地方公共団体への提案営業などを行っています。仕事をする上では、「最終的なユーザーは地域の住民である」ということを忘れないようにしています。直接の営業相手は地方公共団体ですが、その先にはさまざまな地域に住む住民がいます。その住民が何を求めていて、どんなことをすれば生活の質が向上し、暮らしやすくなるのかを考えることがわれわれに求められている仕事だと思いますし、最終的に利益にもつながっていくと思います。

■当たり前を当たり前に

私が入社を決めた理由に、インターンシップの雰囲気が良かったという点もあるのですが、入社してからもその印象は変わらず、先輩たちはわからないことは優しく丁寧に教えてくれます。そして、自分の考えた提案についても、相談すれば背中を押してチャンスを与えてくれます。勤務地や職種によって異なりますが、在宅勤務や時差出勤など働きやすい環境も整っていると思います。

私は水業界に絞って就職活動をしましたが、学生の皆さんには、幅広い視野を持っていろいろな業界のインターンシップや説明会に参加することをおすすめしたいです。そして、いかに情報収集など当たり前のことを当たり前にできるかで、周りと差が開くと思います。当社グループで皆さんと一緒に働ける日を楽しみにしています。

丁寧な対話で信頼大切に

住友重機械エンバイロメント
機器設計部
谷本 礼佳さん

■コミュニケーションを丁寧に

住友重機械エンバイロメントは、水処理プラントの設計・施工や機械設備の納入・補修・運転管理などを幅広く担う"水処理のトータルソリューションカンパニー"です。「環境改善に携わりたい」と思いながら就職活動を進めていたところ、縁あって当社に入社し、今年で7年目になります。

入社後、3年目までは民間工場向け排水処理設備の設計やプロジェクト管理などを経験し、現在は自治体の下水道処理施設に納入する撹拌機や掻寄機、沈砂分離機などの設計に携わっています。エリアを問わず全国各地から受注した業務を幅広く担当しており、顧客との打ち合わせや現場対応、設備の工場検査などの出張が多いことは業務上の特徴と言えます。

設備の受注から納入に至るプロセスでは、顧客となる自治体や工場の方だけでなく、作図や据付などでご協力いただく企業の方など、多くの関係者と綿密に連絡・調整を重ねます。信頼関係を築くことがとても大切な仕事ですので、先方の特徴をよく覚えておくなど、丁寧なコミュニケーションを心掛けています。

■向上心を持って

自分が設計した設備が試運転で実際に動く姿を目にした瞬間や、顧客からの問い合わせを受けて駆け付けた現場でスムーズな対応ができた際にやりがいを感じます。一方で、技術不足が否めないことも自覚しており、勉強の日々です。技術士（国家資格）の資格取得が当面の目標です。機器設計部では新たな機械設備の開発も担当しており、チームに貢献できるよう、資格の勉強を通じてしっかりと知識を身に付けたいですね。

また、顧客が抱えている課題をより的確に汲み取ることができるよう、これまで以上に日頃のコミュニケーションを大切にしていけたらと思っています。

■働きやすい職場

当社には面倒見のいい人が多く、私も先輩方をはじめ多くの同僚に助けられています。入社当時、今より女性社員は少なかったのですが、近年は積極的に採用され、女性の技術者も増えています。男性の育休取得も可能となっており、男女問わず働きやすい仕組みが整っていると感じます。とはいえ、仕組み以上に周囲のサポートが重要だと思いますので、働きやすい職場づくりに努めるとともに、私自身も周りの同僚を手助けできるような存在になりたいです。

就活生の皆さんには「自分はどの業種に就きたいのか」「どのようなライフスタイルを望むのか」ということをよく考えて就職活動に励んでもらえたらと思います。その上で、当社を選んでいただけたら嬉しいですね。

就職活動応援特集

各社が誇る、現場で活躍する社員

ニーズに応える製品・工法

大成機工
東京支店営業主任
武田　直久さん

■業界各所をまわり

大成機工は水道に関わる企業であり、私は営業職として千葉県下を担当しております。官公庁に加えてコンサル、専門商社、ゼネコンなどを訪問し、製品PRだけでなく、設計協力や施工検討なども日々の営業活動です。

水道管は大半が地下に埋設されており、普段見る機会はほとんどありませんが、老朽化が進み更新が必要とされる管路が多くあります。輻輳管があり施工スペースが限定されたり、交通量が多く工事時間が制限されたり、どうしても通水を止めることができないなど水道事業体の方々も更新に苦労される現場が多いのが現状です。

営業というと「製品を売り込む」イメージを抱かれがちですが、実際はこうしたお悩み一つひとつに対し、当社の開発や製造、施工部門と連携し、現場状況に応じた製品・工法を用いて、管路更新や既設管の長寿命化のご提案をさせていただくのが私の仕事です。

■さまざまな角度からの提案

私は大学で社会学を学び、社会からなくならないもの、長く勤められる会社を重視してインフラ業界を中心に就職活動をしました。企業研究を通じて、技術力に魅力を感じ入社を決めたのですが、いざ営業職としてお客さまとお話しするたび、業界内で頼られている会社だと強く実感しています。

ある製品のお問い合わせをいただいた際、訪問し使用目的をじっくりお聞きする中で、お問い合せいただいた製品よりも、よりニーズに合った製品が当社にはあり、そちらを採用いただいたことがあります。多種多様な製品・工法がある当社だからこそ、営業としてお客さまのニーズにあった製品を提供できるので非常にやりがいを感じています。

■社員が作る職場環境

会社の雰囲気としては風通しのよい職場だと思います。例えば、東京支店では係長以下で月に1度悩み相談などをするミーティングを設けているのですが、ここで若手社員の課題・認識や熱い思いをまとめ、管理職に提案する取組みを行っております。管理職・若手の双方の意見が職場環境に反映されるため、とても良い取組みだと思います。またコロナ禍を受け、時差出勤や、テレワークのしやすいクラウド整備なども進み、日々社員の働きやすさを考慮している企業だと感じています。

細かな変化を見逃さない

月島テクノメンテサービス
東日本維持管理第一部
横浜南部事業所　焼却設備班　班長
田端　輝さん

■焼却班の班長として

私は、学生時代から電気・ガス・水道などの生活ライフラインに貢献する仕事に魅力を感じており、磯子工業高等学校では電気を学びました。そこで、上下水道施設をはじめとした運転管理などを手掛けている当社の紹介を受け、平成27年に入社しました。

私が入社当時から在籍している横浜南部事業所では、下水汚泥処理施設の運転管理・監視業務等を包括的に受託しています。私は焼却設備を担当しており、脱水汚泥を焼却処理するための焼却炉の運転管理、機器メンテナンスや不具合の調査・修繕、定期修理工事に向けた要望の調整などを行っています。今年度からは焼却設備班の班長として、チームを取りまとめる立場となりました。班員や他の社内の方々と積極的にコミュニケーションを取りながら、安全第一で業務に当たっています。

■微細な変化を掴む

運転管理では、これまでの運転状況を踏まえた上で、処理に当たっての温度や圧力などを最適な状態に調整します。また、焼却設備の運転期間中は、毎日、約半日かけて状態に変化がないかどうかの点検を行います。作業に当たっては、各機器に設けられた基準値を覚えるだけでなく、機器ごとの特徴やこれまでの経験を踏まえなければ、正常な運転および早期の異常発見につながらないため、技術者の経験量や技量が試されるところです。異常を発見した際には、機器の取扱説明書を参考に原因調査などを行い、部品交換が必要であればメーカーとの打ち合わせを行います。

また、私が在籍している事業所では、年に一度、約2カ月間に及ぶ大規模な焼却炉の定期修理があります。作業上の効率性や予算、劣化状況の優先度などから適切な工事手順になるよう、調整を行います。

■好奇心が仕事につながる

学生の皆さんには、興味のあることにはどんどんチャレンジしてほしいと思います。私は、機器がどういう仕組みなのか気になり、取扱説明書などで仕組みを調べていた時期がありました。しばらく経った頃、調べていた機器に異変が起きたものの、事前に調べていたおかげでスムーズに原因がわかり対応することができました。ちょっとした興味が思わぬところでつながるのかと実感した経験ですね。ぜひ学生時代にはたくさんの経験をしてください。好奇心に溢れた方の入社をお待ちしております。

汚泥技術のトップランナー

月島機械
水環境事業本部プロジェクト推進部
ソリューショングループ
富田　遼さん

■豊富な技術メニュー

大学時代は化学工学を専攻していました。藻類バイオマスを研究テーマとしていたこともあり、エネルギーの仕事に興味を持っていましたが、就職活動は分野を絞らず幅を広げて行っていました。他企業のインターシップに参加したことをきっかけに下水道分野での月島機械の技術メニューの豊富さに触れ、興味が深まりました。

入社後は、民設民営の消化ガス発電設備の運転、国土交通省の実証事業を通じて開発した下水汚泥の脱水乾燥システムの導入提案の仕事などを経験し、現在は下水汚泥に関する脱水、焼却、創エネルギーなど総合的な企画・提案業務を担っています。

■汚泥のトップランナー

今、汚泥技術の総合的な提案に取り組む中で、濃縮、脱水、消化、乾燥、焼却、発電などの多様な要素技術と数多くの実績、積極的な研究開発、そして修繕・運転管理を専門的に担う関連会社を有する当社が各処理場に最適な提案を導けるトップランナーであるとの自負を強くしています。

消化ガス発電設備の仕事は、運転効率を上げること、発電量を増やすことが直接収益につながる現場で、興味を持っていた創エネルギーにビジネスとして取り組む貴重な経験でした。脱水乾燥システムは、主に中小規模の下水処理場の汚泥の再生利用のポテンシャルを引き出す技術です。技術を通じて創エネルギーに取り組む裾野を広げることで下水道プラントの仕事の大きな成長性を実感しました。

脱炭素という国際的なトレンドの中で、下水道には変化が望まれています。今後、この変化はより加速していくでしょう。その中でも常にお客さまに喜んでもらえる提案ができる技術力を当社は有しています。

■成長している実感

コロナ禍を経て、現場を持つプラントメーカーの働き方も大きく変わったと感じます。リモートなど職場にいなくても仕事に向き合える環境の中で、仕事の時間、家族との時間ともに柔軟に過ごせるようになり、公私ともに一層充実しています。

課題に対して真摯に最後まであきらめないで取り組む風土、若手社員でも一担当者としてチャレンジさせてもらえる環境が当社の魅力です。技術者として成長できている実感は、入社して良かったという思いを確信させてくれます。

水と環境の創生コンサルタント
日本水工設計

積極採用中!
インターンシップ受付中
←エントリーはこちら

（公社）全国上下水道コンサルタント協会会員
日本水工設計株式会社
代表取締役社長　本名　元
本社：〒104-0054 東京都中央区勝どき3-12-1
TEL.03-3534-5511　FAX.03-3534-5534
支社：東京・名古屋・大阪・広島・九州
https://www.n-suiko.co.jp

私たちは
安全で快適な水環境を
創造します
テイシー

TEC Group

株式会社
東京設計事務所
千代田区霞が関3-7-1
代表取締役会長　亀田　宏
代表取締役社長　狩谷　薫

株式会社
TECインターナショナル
千代田区霞が関3-7-1
代表取締役社長　狩谷　薫

水を仕事にする魅力、やりがい

成果冊子は寄り添った証

日本水工設計
東京支社 下水道二部管路設計課
水野 陽介さん

■インターンに参加

当時住んでいた千葉県内の臨海部で東日本大震災の液状化被害を経験し、水に関わる仕事に興味を持ちました。大学では土木工学を学びましたが、専攻は水ではありませんでした。大学3年の夏、インターンシップへの参加が日本水工設計との出会いです。

土木の仕事現場には厳しいイメージがありましたが、インターンにて感じた心地よい職場の雰囲気、社員から聞いたコンサルタントの仕事のやりがい、職業としての安定性に惹かれ「受かったら入社する」と決めました。

■寄り添う仕事の魅力

入社後、下水道管路の設計部署に配属になり、1年目は総合地震対策計画など自治体の中長期の方向性を検討し計画する仕事、2年目からは実際に施設設計を行う仕事を担当し、入社5年目になります。

仕事に必要な知識は膨大です。覚えるよりも、多くの文献やマニュアルに目を通し、知識の「在りどころ」を抑えることを意識しています。

コンサルタントの仕事は、ゼネコンと異なり、自分の仕事の一つの成果が形としてではなく分厚い冊子として現れます。その冊子はお客さまである自治体に寄り添った証で、まさに確かな知識をもとに寄り添える仕事こそがコンサルタントの魅力だと思います。そしてそのやりがいは徐々に増してくるものです。

今は、管路部門のキャリアを通じて管路に強い技術者になること、その上で下水道全般の知識を身につけていきたいと考えています。担当する業務の前後工程を知ることで、自治体に一層喜ばれる提案ができますし、それを実践できている先輩方の姿は魅力的です。

■一番の魅力は雰囲気

ワークライフバランスについては、どうしても繁忙期こそありますが、金曜日の夕方に仕事が一段落つけば、休日は学生時代から続ける趣味、自分の時間を満喫できています。

やりたいことが明確ではなくても飛び込んでみると魅力に気づくことがあります。当社の印象は学生時代のインターンで感じた通りでした。知識と経験を身につけるサポート、そして良き人柄である先輩方の存在、そして何よりも会社の雰囲気こそが当社の一番の魅力だと思っています。

「川上」の仕事に惹かれて

東京設計事務所
東京支社 デザイン第2グループ
建設デザイン第2チーム
松田 智徳さん

■水コンって何だろう

大学時代を振り返ると、土木学科のためゼネコンに進路を定める学生が多く、私も当初はゼネコンが第1志望でした。建設コンサルタント、それも水コンという選択肢は思いも付きませんでしたし、正直な話、「水コンって何をやる仕事？」という状態でした。研究室の先生から水コンの選択肢もあるよと助言をもらい、試しに会社訪問してみようというところから始まりました。

ゼネコン、水コン、どちらもプロジェクト全体を見渡す仕事という性質は同じですが、ゼネコンは現場がメインであるのに対し、水コンでは「どの施設を、どの順番（優先度）、どのような方法で」という、より川上の段階、計画づくりからアプローチしていきます。OBを訪問し、仕事の内容、会社の雰囲気に触れるうち、自分自身が本当にやりたいことは水コンなのではと思うようになりました。

■伸び伸び働ける環境

いざ水コンを志望しようと考えた際、個人的に重視したのは働く環境でした。TECの社風はいわゆる体育会系とは真逆で、上司先輩、後輩社員の隔てなく非常にフランクな職場です。仕事の進め方もチームとして取り組む印象が強く、ここで伸び伸びと働いてみたいと思ったのが入社の決め手でしたね。

現在、入社5年目ですが、下水処理場の再構築（老朽化対策）事業に関連した設計業務や、耐震設計業務を手がけています。入社当初は知識も経験も真っさらな状態からスタートするので正直不安もありましたが、先輩のフォローも手厚く、社内研修も充実しているため、着実にスキルアップできています。育てるだけでなく、社員を大事にするという意識も強く、有給休暇取得奨励制度など福利厚生にも力を入れているなということは一社員として感じます。

■海外にも広がる仕事

海外でも水ビジネスを積極的に展開しています。TECグループ内に海外業務専門のTECインターナショナルがあり、60数年にわたって、世界66カ国で水ビジネスを展開してきた実績があります。世界を見渡せば、安全な水にアクセスできる国・地域は限られており、途上国での水インフラ整備はこれからが正念場です。国内の仕事だけでなく、できれば海外も…と世界に目を向ける学生さんにとってもTECグループはぴったりだと思います。希望すれば、TECグループ内での人事交流もあります。まずはぜひ、水コンという仕事に興味を持ってもらい、その中で当社を選んでもらえたら嬉しいですね。

コンクリートの楽しさ胸に

日本ヒューム
技術本部技術開発センター
伊藤 夏美さん

■2年目で新製品開発に

私は学生の頃インターンで、日本ヒュームの熊谷工場で1カ月間勤務したことをきっかけに、ここで働きたいという思いを強くし、その後、縁あって入社することができました。今年で入社2年目になります。

所属する技術開発センターでは、新しいコンクリート材料の開発や全国の工事現場のニーズに応じたコンクリート製品の設計を行っており、私の担当は雨水貯留管にも使われているセグメントや、高速道路の橋梁上に設置されるコンクリート製の柵「壁高欄」です。発注図面を基に、現場の状況に応じて適切なサイズのコンクリート製品を設計します。

また、当社新製品の「ウェルマン貯留槽」の開発チームにも所属しております。このウェルマン貯留槽は、大規模な雨水貯留施設を設置できないような都市部を対象としたもので、縦長の円筒形のコンクリート製貯留槽（内径8000㎜、深さ40㍍程度）、ポンプ、脱臭装置まで含めたパッケージで自治体に導入を提案しています。今年開催された下水道展で、お披露目を迎え、私も説明員として来場者の方々に製品を紹介させてもらいました。

■ネットワークを広げ

今年からは、土木業界で働く女性同士のネットワークとなる「土木技術者女性の会」にも、参加しています。会の活動を通じて、他社で現場監督をされている女性の先輩の方々に経験談を聞くこともできたほか、小学生を対象にしたセミナーにも運営側として参加でき、良い経験を積めたと感じています。

今の目標は、先輩のように、コンクリート製品の実験を一人でできるようになることですね。先輩の助手として参加することもあるのですが、実験用の機器の設置条件などは、指示がないと私にはまだ難しく、いつかこれも含めて自分でできるようになりたいですね。

■楽しいを大事にして

高校生の頃、近くの公園で開催されていたコンクリート製のカヌーを水に浮かべる大会を見たのがきっかけでコンクリートに興味を持つようになりました。進学先でもコンクリートを扱う土木・建築系のクラスを選択しました。課外活動の一環で、先ほどの大会にも参加し、カヌーを浮かべることもできました。浮力が大きすぎて逆に不安定だったのもいい思い出です。

これから就職活動をされる方には「楽しい」を大事にしてほしいなと思います。私はコンクリートを扱っているときが一番楽しいですし、就職活動でもその思いを大事にしていました。「楽しい」という気持ちがあれば、仕事の目標も見つかりやすいと思いますよ。

水と環境の Consulting & Software
NJS
公益社団法人 全国上下水道コンサルタント協会会員
株式会社NJS
代表取締役社長　村上 雅亮
〒105-0023
東京都港区芝浦1-1-1　浜松町ビルディング14階
TEL：03-6324-4355(代表)　FAX：03-6324-4356
URL：https://www.njs.co.jp/

想い描いています
豊かな水との暮らし
OEC オリジナル設計株式会社
代表取締役社長　菅　伸彦
本社：〒151-0062 東京都渋谷区元代々木町30-13
人は財産

就職活動応援特集

各社が誇る、現場で活躍する社員

現場と地域つなぐ、誇り

フソウ
エンジニアリング事業部 工事本部
西日本工事部 中国工事課 土木グループ長
森木 仁詩さん

■両親の背中が目標

建設業に従事している両親を見て育ち、同じ道に進みたいという思いから、大学では測量や土質、コンクリート構造物について学びました。就職活動時は高速道路の建設など大規模工事に関わりたいという気持ちもありましたが、人々の暮らしに欠かせない「水」に関わる会社であり、幅広く水インフラに携われることに魅力を感じフソウへの入社を決めました。

まず機械設備工事の現場に配属され、入社早々から現場代理人を務めましたが、うまくいかないことばかりでした。現場代理人は会社の代表であり、受注した工事現場の責任者です。1年目だから分からなくて当然という理由は通用しません。現場作業や書類の作成など、当時の上司や協力会社の方にずいぶん鍛えられました。その結果、安全でより良い品質のものを納めることが会社の信頼に、最適な工程での施工が協力会社にとっても安全で良い品質を守ることに繋がることを学びました。

■コミュニケーションを重視

コロナ対策として始業前に全員の体温測定、消毒、マスク着用を義務付けています。感染対策面での大変さはありますが、ミーティングのオンライン化が進んだことで、距離に関係なく以前よりもコミュニケーションを取りやすくなりました。

土木グループ長という立場ですので、部下の話は些細なことでもこまめに聞き、内容によっては上長に要望を伝えるなど、グループ全体の調整も図っています。会社としても働き方改革の一環で、現場環境をより良くしようとしてくれていますので、引き続き改善の努力をしていきたいと思います。

直近では取水場から配水池までの水道管（口径600㎜ダクタイル鋳鉄管）布設に携わりました。交通量も多く通学路にもなっていた片側1車線の中央車線付近への布設現場では、お客さまと協議の上、昼間工事を夜間工事に変更しました。現場代理人になれば自分の知識を活用して仕事ができますし、当社では若手がそのような立場で活躍できる環境があります。

子どものころ、現場監督をしていた父が現場に連れて行ってくれたことがありますが、かつての自分のように、「ここはお父さんが作ったんだよ」と胸を張って言える仕事を誇りに思っています。お客さまから「フソウに任せて良かった」、地元の方から「いつもありがとう」と言われることが何より励みになりますし、ちょっとした要望にも迅速に対応できるのが当社の強みです。今後も発注者との信頼関係を築くとともに、地域の声に寄り添い、人々の暮らしにより深く関わる仕事を目指したいと思います。

水を広く学び、個性を活かし

前澤工業
環境事業本部環境ソリューション事業部
官需推進部営業企画課 主任
田中 一輝さん

■個性的技術に惹かれ

前澤工業は、全国の官公庁にある上下水道などの処理施設で単体機器・装置の設計、製作、据付までを一貫して行う上下水道の水処理機械を扱う総合水処理プラントメーカーです。通常、機械というと単品での導入を想像するかもしれませんが、当社の特長は安定的な処理に向けてシステム的に開発から取り組んでいる点にあります。

私はもともと環境問題に対して意識を持っており、汚れた水をキレイに再生する水処理技術に興味がありました。大学では、前澤工業と官公庁も参加した実証試験に携わり、従来の技術に独自のノウハウを盛り込むことで、高効率な技術開発に挑戦する前澤工業の姿を間近で見ていました。環境問題が課題とされる中、独創的な視点でシステム技術開発を行っていた点に面白さを見出し、民間側から水業界に関わる道を選びました。

■経験が力に

今年で入社11年目になります。入社時から官公庁の上下水道事業の営業担当として勤務しており、現在は本社の営業本部を担う部署に所属しています。

今でこそ、一人で営業先を訪問することは当たり前になりましたが、入社時は当社が実施する「ブラザーシスター制度」の下、先輩社員から二人三脚でやり方を教わり、二年目から担当地域を任されるようになりました。

最初は教わったように実践しても、緊張に負けて上手くできないこともありましたが、先輩社員のフォローやサポートが手厚く、失敗を恐れず挑戦できる環境が当社にはあったので、失敗しても一つひとつ階段を上っていくことができました。

■入社後が本番

当社の良いところを挙げるとすれば、「自分の強みを活かせること」だと思います。私自身、実を言うと営業職ではなく技術職をやりたいと考えて入社しましたが、今では営業職として顧客や関係部署と連携を図ることに楽しさを見出し、改めてそれが強みであると自覚しました。就職先を選ぶにあたって重要なのは「仕事を通じていかに努力して知見を得ることができるか」であり、理系・文系などの考えに囚われて選択肢を狭める必要もないと思っています。さまざまな分野の人と関わりながら、水全般を学ぶことできる当社は幅を広げながら強みを活かした働き方を見つけることができます。

変わる3Kの 下水管内の仕事

真下建設
管路更生事業部技術第一課 技師
小彼 淳司さん

■北関東で事業展開

皆さんが住んでいる家などもそうですが、数十年経てば建て替えや改修が必要になりますよね。下水道管路についても同様に、すでに全国で約2万キロメートルものストックが老朽化に直面しています。直すにしても都市部の地下に張り巡らされた管路を掘り返すのは非効率ですし、何よりも住民生活にも少なからず支障が生じます。

掘り返さず、スピーディかつ経済的に直すことができる技術を「更生工法」と言いますが、当社は総合建設会社としてさまざまな事業基盤を持つ中で、管路更生事業を北関東一円で展開しています。SPR工法や光硬化工法で調べてもらえたら情報が出てきますが、その施工を一挙に担える数少ない会社の一つになります。

■変わる3Kのイメージ

下水道管路内の作業ということもあり、時には過酷な現場もありますが、地域の営みが続く限り永続的に続く仕事という意味では非常に安定した業界ですし、事実、更生工事の引き合いは年々右肩上がりで増えています。長く安心して働けるのも魅力の一つです。

技術の進歩は目覚ましく、極力手間や時間をかけず、なおかつ安全に配慮し施工が行えるようなシステムの導入も盛んに進んでおり、3Kのイメージも多少なりとも変わってきているように思えます。現場によっては半日足らずで終わったりと、必ずしも「現場＝キツい」だけではないですよ。

■現場のスペシャリストに

入社から1年半ほどは一般土木の部署で働き、その後下水道管路の更生を手がける今の部署へと移りました。現場工程や予算の管理、安全衛生対策に関する指導のほか、元請け企業との交渉・打ち合せなど全般を行います。最初は補佐としてスタートし、仕事に慣れた頃から現場代理人としてデビューします。更生工事のスペシャリストとしてさまざまな資格も取得していきます。今は1級土木施工管理技士が大きな目標ですね。自分の知見ノウハウや技術力が資格として公に認められる仕事というのも気持ちが良いものですね。

■強みを意識して

仕事柄、近県にも赴くケースが多いですが、長野県内の現場を担当した際、余暇にはウインタースポーツに興じるなど、行く先々でさまざまな体験ができます。旅行好き、アウトドア指向の学生さんにはぴったりかもしれません。今の部署は比較的若い世代の社員で構成されていることもあり、気さくに雑談を交わしたり、時には趣味の話に花を咲かせたりと和気藹々とやっています（笑）。

就職活動を考える上では、ぜひ業界の安定性、その業界における志望会社の立ち位置、できればその会社ならではの強みを意識してみてください。その中で管路更生の仕事に興味を持ってもらえたら、ぜひ当社に。

株式会社 極東技工コンサルタント https://www.kgc21.co.jp

大阪本社 大阪府吹田市南金田2-3-26 ファー・イースト21 ／ 東京本社 東京都台東区上野1-10-12 商工中金・第一生命上野ビル

水&環境の総合コンサルタント
Integrated consultant of water and environment

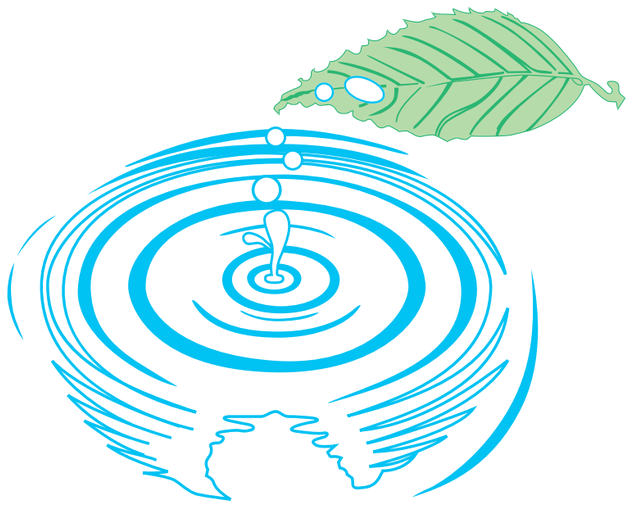
2022 健康経営優良法人 Health and productivity

社員は、会社の「財（たから）」です。
建設コンサルタント業界においては、他社に先駆け、年間を通じた週1回以上の定時退社および6月～10月には全社ノー残業マンスを実施し、残業時間の低減を実現するとともに、社員のワークライフバランスを大切にしています。

心身ともに健康で充実した社員が一丸となって、昭和49年（1974年）の創業以来、蓄積してきた技術力をさらに向上させ、地域に密着したサービスで水を育み、環境を守り、暮らしを豊かにする真のコンサルタントを目指しています。

大阪本社社屋

生命の水を守ります。



（公社）全国上下水道コンサルタント協会 会員
（一社）管路診断コンサルタント協会 会員
●調査●事業計画●実施設計●施工監理●診断●コンピューター解析

株式会社 三水コンサルタント 代表取締役社長 山 﨑 義 広

本社/大阪支社 〒530-0005 大阪市北区中之島6丁目2番40号 TEL.(06)6447-8181(代) FAX.(06)6447-8196
東京本社/東京支社 〒112-0002 東京都文京区小石川5丁目5番5号 TEL.(03)5976-9060(代) FAX.(03)5976-9077
中部支社 〒460-0008 名古屋市中区栄2丁目11番19号 TEL.(052)684-9300(代) FAX.(052)684-9301
西部支社 〒810-0801 福岡市博多区中洲5丁目6番28号 TEL.(092)282-7050(代) FAX.(092)282-7055
東北支社 〒981-0912 仙台市青葉区堤町1丁目1番2号 TEL.(022)728-7205(代) FAX.(022)728-7207

人事／採用担当者に聞く

スキルアップへ手厚い支援

NJS

管理本部人事総務部
市原 麻里絵さん

■事業体のパートナーとして

NJSは70年余りにわたり、地域における水と環境に関する業務において、事業体の技術パートナーとして安全かつ安心な上下水道システムを構築するための技術とコンサルティングサービスを提供している会社です。

水コンサルタントは上下水道の計画や施設設計業務のイメージが強いですが、弊社の強みは広域化・共同化、官民連携、施設の点検調査から最適な修繕・改築の実施、運転管理までライフサイクルを通した効率的な管理を実現するため、ソフトウェアや技術研究開発、事業体の課題解決や運営上のニーズに柔軟に対応できる点です。300人を超える技術士、さまざまな専門資格の有資格者たちがそれぞれの強みを生かして業務に当たっています。

■採用から入社後のビジョン

採用は3月に会社説明会を行いエントリー、その後1次・2次・最終試験を経て、内定をお出しします。入社後は、1週間新入社員研修を行い、各部署へ配属されます。配属に当たっては、希望を聞いた上で決定します。配属後は新入社員1人につき、先輩社員1人がOJT研修を担当します。1年目が終わるころには小さなプロジェクトを担当できることを目標にしています。

また、資格取得支援も充実しています。特に、技術士の資格取得に当たっては、社内勉強会や模擬面接の実施を行っています。その成果として、NJSの技術士取得の平均年齢は29歳前後となっています。入社してもスキルを磨けるよう、手厚く育成支援を行います。

弊社に興味を持っていただいた方は、オンラインで「1day仕事体験」を実施していますので、ぜひご参加ください。グループワークはオンラインになりますが、実業務の疑似体験ができるので好評です。「1day仕事体験」は来年2月まで毎月実施を予定していますので、ご都合の良い時にご参加ください。

■前進する姿勢を

弊社はこれまで培ってきた確かな技術力とともに、成長できる環境があることも魅力です。「水と環境」という人間にとって最も根源的で大切なテーマに向かって、新しい時代を切り拓いていく意欲をお持ちの方を募集しています。確固たる地位を築く一方で、NJSには新たな分野への挑戦や技術力のさらなる向上に意欲的な社員が多く、その前進する姿勢やチャレンジ精神が尊重されています。

自分のやりたいことをやり続けるためには、自身のスキルも関わってきます。ぜひ、会社選びの価値観の一つとして、「成長できる環境があるか」を意識した就職活動を進めていただきたいです。

東京水道

（写真左から）
管理本部人事部人事課採用担当
主任　佃　嘉文さん
主事　今野　成美さん
主事　隅田　恵さん
主事　髙橋　明里さん

安心して働ける環境を整備

■トータルサービス会社として

東京水道株式会社は、東京都が出資する政策連携団体であり、現場で培った技術やノウハウを活用し、首都東京の水道インフラを支えています。

主な事業内容は、水道施設の維持管理業務（水源林保全管理・貯水施設管理、浄水場等の運転管理・水質管理・維持保全）、水道管路の整備業務（管路の調査・設計・積算、管路工事の施工監理）、水道管路の維持管理業務（配水管附属設備調査、管体環境調査、漏水調査）などの技術系業務と、都民の問合せ窓口であるお客さまセンターの運営や、営業所運営業務などの営業系業務に加え、IT部門では水道料金システム等の開発・保守・運用を手掛けています。

社員数は令和4年4月現在、約2800名、水道のほぼすべての事業領域をカバーし、IT部門も備える「日本最大級の水道トータルサービス会社」です。

■充実した福利厚生を完備

当社の強みは、成長力、安定性、技術力、社会貢献性です。東京都水道局から、営業系業務は今後10年、技術系業務は今後20年を目途に、業務を当社に移転する方針が示されています。東京都の出資を受け、財政基盤は安定しており、現場で培われた高い技術力を生かして首都東京の安定給水を支える社会貢献度の高い会社です。

また、さまざまな研修機会の提供、資格取得支援制度など、若手社員のキャリアアップを支援するための制度を多数用意しています。各種休暇制度、男女問わず子育てを支援する制度など福利厚生制度が充実しており、長く安心して働くことができる環境が整っています。

■基幹ライフライン支える

採用までの流れについては、まずは会社説明会で会社概要や事業概要を理解していただきます。説明会は基本的にWEBでの実施ですが、希望者には会社見学会と併せて対面でも実施しています。

その後、筆記試験を通過した方は面接試験（1回）に臨んでいただきます。

当社の社員は準公務員ともいうべき立場にあることから、コンプライアンス意識が高いことはもとより、水道事業に興味がある、社会貢献がしたい、人の役に立ちたい、専門性を高めたいなどの志がある方を歓迎したいと考えています。

コロナ禍をはじめとする、紛争や経済等の外部環境が激しく変化する中で、「安定」ということの実現が難しい世の中になりつつあることを、学生の皆さまも感じているのではないでしょうか。当社は、そのような要因に左右されることなく、基幹ライフラインを支えるという、責任ある仕事に携わることができます。少しでもご興味をお持ちいただけましたら、お気軽にお問い合わせください。

上下水道Q&A

Q：水道料金には何が含まれている？

A：ほとんどの自治体等の水道料金は上水道料金（基本料金＋従量料金）、下水道使用料、消費税で構成されています。

「基本料金」は水道を契約していれば、必ず支払う料金です。水道メーターの大きさ（口径）ごとに金額が決まっていて、ある一定程度までの水道使用量が含まれています。基本料金に含まれる水量を超えた分から、使用量に応じて「従量料金」として算出されます。

下水道使用料は上水道の使用水量を汚水排出量とみなして算出します。下水道のない地域では請求されませんが、浄化槽やし尿の汲み取りなどを個人の負担で行うことになります。これらは基本的に2カ月に一度検針と請求が行われ、地域ごとに金額も異なってきます。

Q：支払った水道料金は何に使われている？

A：水道事業は民間企業と同じように「独立採算」で経営されています。水道水をつくるためのもとになる原水をきれいにすることに必要な事業費は、税金ではなく水道使用量によって賄われています。そのうち上水道の料金は主に施設の更新費用、水を運ぶ管路の整備、災害に対する備え、メーター検針や料金の徴収、浄水場の運転費用など、また下水道使用料は主に施設の建設・改良費、汚水をきれいにする費用、将来の施設更新への備えなどとして事業運営の大切な財源に活用されています。

Q：断水はなぜ起きるの？

A：水道水は、浄水場できれいにされた後、水道管を通って家庭の蛇口に届きます。断水は、水道水が各家庭に届くまでの過程で起こるアクシデントによって発生します。

例えば地震や大雨など災害発生時には水道管が壊れたり、水の濁りで浄水できないなどの問題が起こり、断水リスクにつながります。最近では静岡市で台風の影響による原水取水の停止や水道管の破損などで約6万3000世帯が断水し、一部地域では断水が約2週間続きました。この時には復旧までに多くの時間を要したため、静岡市のほか市外の自治体などが全国から応援に集まり、給水車を活用した応急給水活動を展開しました。

現在、水道事業は災害に強い施設づくりとともに、有事の際に備えてBCPマニュアルの作成や訓練などで日々、対応力の向上を図っています。

Q：停電が起きたら水は届かなくなる？

A：大規模災害などによって浄水場で停電が発生し、機能自体が停止してしまえば「断水」が起こります。一方で、停電により浄水場の機能が停止しなくても家庭に届くまでの水道管が災害によって何らかの悪影響を受けて破損してしまうと「漏水」が発生し、それに起因した断水につながる恐れもあります。そのため、自治体等では災害時の停電に備え自家発電装置を設置するとともに、浄水場の機能を停止させない整備や老朽化した管路を新しく強いものへと更新を進めています。

Q：災害時に水が使えない時はどうする？

A：飲料水だけでなくトイレの確保も重要です。災害時、断水や排水管の破損などの影響で水洗トイレの使用ができなくなる場合があります。日本トイレ研究所の調査では、東日本大震災の発災時から3時間以内に3割の人がトイレに行きたくなったことや、仮設トイレが避難所に行き渡るまでに4日以上要した地方自治体は66%に上ったことが報告されています。

下水道事業では、災害時においても迅速にトイレ機能を確保するため、「マンホールトイレ」の整備を進めています。マンホールトイレは、マンホールの上に簡易な便座やパネルを設けたもので、日常生活の水洗トイレの環境と近く、段差が無いため車いすの方も安心して使用することができます。

Q：災害時以外でもマンホールトイレを使うことはある？

A：マンホールトイレは、市町村が指定する小学校などの避難所に整備されている場合が多いことから、学校の催しや地域のイベント等で、仮設トイレの代わりにマンホールトイレが使用されることもあります。また、地域の防災イベントでは、関係部局と地域住民が一緒になってマンホールトイレの設置訓練を行っているところもあります。

災害時には、関係部局が避難場所に駆け付けて設置作業を行うことは難しいため、地域住民が自ら設置作業を行わなくてはいけません。そのためにも、平時からマンホールトイレの設置予定場所を確認し、設置や使用を経験しておくと、災害時に慌てることなく使用することができます。

株式会社 日本水道新聞社
〒102-0074
東京都千代田区九段南4丁目8番9号　日本水道会館1F
TEL：03（3264）6721（代）

HPリニューアルしました　採用情報はこちらから

【募集概要】
応募資格　○大学卒業見込みの方(全学部全学科)
勤務地　○東京・大阪
募集職種　○営業…広告営業を通じて上下水道業界に携わる企業の広報・PR戦略の提案をします
○編集・記者…全国各地の行政機関、水道関連の研究所や技術メーカーの取材・撮影を行って記事を作成します

就職活動応援特集

水の仕事に興味を持ったら 知っておきたい業界の動向

国の水道行政移管を巡る動き

日本の近代国家としての歴史の中で、水道行政は公衆衛生を基幹の目的として、健康な暮らしを支えるため、厚生労働省（かつては内務省、厚生省）が所管してきました。現在、この歴史が大きな転換点を迎えています。

政府では水道行政の移管に向けた具体的な検討が進められています。水道行政は昭和32年以降、厚労省（当時は厚生省）が実質的に単独で所管し、60年超にわたり厚生行政・衛生行政の一部門としての歩みを進めてきましたが、コロナ禍を踏まえた厚労省の感染症対応能力強化に向けた組織見直しの一環として、9月2日の政府「新型コロナウイルス感染症対策本部」で国土交通省と環境省に移管する方針が示されました。

現在、国交省は下水道、河川・ダム、防災など水インフラに関する多くの分野を所管しており、環境省は水環境など水質分野を所管しています。水道行政の移管によって、インフラとしての発展、他分野との融合、連携が期待されている一方、厚生・衛生という根幹的な目的が希薄になってしまうのではないかという不安を抱く方もいます。

今後は令和6年4月の移管を目指し、令和5年1月招集の次期通常国会に関連法案が提出される見込みとなっており、国会でも議論が行われます。移管に関連するこれまでの動きを日本水道新聞・日本下水道新聞の掲載記事の内容から整理します。

■水道行政移管の方針

9月2日に開かれた政府「新型コロナウイルス感染症対策本部」（本部長＝岸田文雄首相）の第97回会合で、6月17日の第93回会合で決まった「新型コロナウイルス感染症に関するこれまでの取組を踏まえた次の感染症危機に備えるための対応の方向性」に基づく「新型コロナウイルス感染症に関するこれまでの取組を踏まえた次の感染症危機に備えるための対応の具体策」が決定しました。具体策の大きな柱は▽次の感染症危機に備えた感染症法等の改正▽新型インフルエンザ等対策特別措置法の効果的な実施▽次の感染症危機に対応する政府の司令塔機能強化▽感染症対応能力を強化するための厚生労働省の組織の見直し――の4点です。

ここで挙げられた厚労省の組織見直しの一つとして、水道整備・管理行政の全般を国交省、うち水質基準策定等を環境省へ移管することが明記されました。インフラの施設整備や下水道運営等の知見を有する国交省が一元的に水道行政を所管することでパフォーマンス向上を図ること、そして環境省が専門的な能力・知見に基づき水質基準の策定を担い、水質・衛生に関する一部の業務について国交省の協議に応じることで水道の安全・安心を一層高められると考えられています。

政府の発表では、移管した後の具体的な組織体制は明らかにされていませんが、本紙の取材によると、多くの地方公共団体が水道事業・下水道事業を同一部署で所管している状況などを踏まえて、国交省に設置されている「水管理・国土保全局」という組織の中で下水道行政と一体で運営する方向で調整が進むことが有力となっています。環境省では、水質汚濁に係る環境基準を所管している「水・大気環境局」という組織で水道水質の仕事を担うことが有力視されています。

日本水道新聞・日本下水道新聞では、さまざまな関係者に取材をして、国交省と環境省の両省にまたがった場合の業務分担のイメージ（表）をまとめました。両省の業務分担のイメージは次の通りになります。専門用語が多いですが、これらの言葉を少し調べて見るだけでも水道の仕組みに詳しくなります。

【国交省】水道事業・水道用水供給事業の認可、指導・監督▽水道事業者等が実施する水質検査▽施設基準の策定▽基盤強化計画、広域的連携等推進協議会▽国庫補助▽専用水道・飲用井戸▽給水装置の基準策定・検査、指定給水装置工事事業者――に関すること

【環境省】水質基準の策定▽水質検査内容の策定――に関すること

もちろん、両省は別々に仕事をするのではなく、連携して仕事をしていきます。一部の業務については、法律や国の制度にも連携することが明記されることになります。

国会などの場でも、これらの仕事の分担、連携のイメージが議論され、今後変更される可能性もあります。

国交・環境両省での業務開始は令和6年4月を予定しています。現在、移管元の厚労省を含む3省が連携して、水道法をはじめ、関係する法律の内容を検討しています。

自治体が経営していますが、一部の地域では昔から民営で行っている場所もあります。全国の水道事業体が集い、水道の技術や経営の共通の課題を話し合う団体「日本水道協会」では、心配される影響などをまとめて、国に意見を示しています。

国が移管方針を9月2日に示した直後の9月6日、運営会議という全国の水道事業体の幹部が集まる会議の席上で要望書をまとめ、厚労省に「陳情活動」を早速行いました。

要望書では、昭和32年以前に水道行政が2省に跨がっていた旧厚生省時代に許認可申請や補助申請などが複雑化したこと、その後は公衆衛生向上の観点から厚労省で一元的に取り扱われてきたことなどを指摘しています。その上で「他府省庁への移管後は、財政支援など水道の基盤強化を一層強力に推進するとともに、水道に対する安全・安心をより高め、水道行政の一体性や迅速性が損なわれないよう十分配慮されたい」と要望しました。

要望の際に日本水道協会の青木秀幸理事長は「感染症対応能力強化のための移管ということで、それ自体に反対するのは難しい。ただ、2省に分かれると両省間の協議に時間がかかり、水道行政のスピード感が失われるのではという懸念がある」とし、具体的な検討における十分な配慮を求めました。

このほかの業界団体などにおいてもこの動きへの関心は高く、これまでに各所で要望・議論が繰り広げられています。

計画・設計、製造、施工、水処理のエンジニアリング、そして行政など水の仕事は多くの人の営みのもとで構成されています。国の水道行政移管はすべての人に影響する大きな動きです。

水道行政の主な業務と移管先のイメージ（本紙取材による）

水道・用水供給事業の認可、指導・監督 ➡	国土交通省	（環境省）水質・衛生の観点で連携
水質基準の策定 ➡	環境省	
水質検査の内容の策定 ➡	環境省	（国土交通省）施設の観点で連携
水道事業者等による水質検査に関すること ➡	国土交通省	
施設基準の策定 ➡	国土交通省	（環境省）水質・衛生の観点で連携
水道基盤強化計画、広域的連携等推進協議会に関すること ➡	国土交通省	
国庫補助 ➡	国土交通省	
専用水道、飲用井戸等に関すること ➡	国土交通省	（環境省）水質・衛生の観点で連携
給水装置の基準策定・検査、指定給水装置工事事業者に関すること ➡	国土交通省	（環境省）水質・衛生の観点で連携

※このほか水質検査機関や指定試験機関の登録に関する業務も各制度の内容に応じた対応がなされるものとみられる。

業界の歴史的転換点に

■3省間で準備本格化

国の水道行政は現在、厚労省の医薬・生活衛生局水道課が担当しています。この水道課の仕事をどうしていくかを、移管先になる国交省、環境省とともに話し合っているところです。移管元の厚労省と移管先となる国交省および環境省の課長級による協議の場が10月から設けられ、具体的な調整が始まっています。

厚労省からは名倉良雄水道課長、国交省からは水管理・国土保全局下水道部の鈴木毅下水道企画課長と石井宏幸下水道事業課長、環境省からは水・大気環境局の大井通博水環境課長が参加しています。

つまり、移管後のイメージとして、これらの課が連携して仕事をしていくということが有力です。移管した後は2省を跨ぐ対応が必要になることから、短期間での関係省庁の法規・技術双方の担当間による綿密な協議が必要となっています。

■移管を見据えた動き

水道行政の移管の方向性が決まった後、静岡県静岡市では9月下旬、台風15号の大雨で水道の施設が壊れ、約6万3000戸の大規模な断水が発生しました。これまでであれば、こうした事故の際には厚労省水道課が主導して対応していましたが、今回の台風では移管を見据えて、厚労省だけでなく防災を担当する内閣府、国交省と緊密に連携して対応しました。

9月27日に内閣府の星野剛士副大臣、厚労省の本田顕子大臣政務官が現地視察および静岡県・静岡市との意見交換を行った際には、内閣府・厚労省の担当官とともに、国交省下水道部下水道事業課の職員が随行し、ともに対応を協議しました。

国民にとっては当たり前のことのように思えるかもしれませんが、こうした連携を取ることは異例で、静岡での省を超えた連携は、国会でも話題になりました。10月7日に開かれた参議院本会議では、自民党の牧野たかお議員が水道行政移管に絡めて水道事業の災害対策強化について質問し、岸田首相が答弁しました。

牧野議員は、台風15号の影響により静岡市で発生した断水事故に触れながら「厚生労働省には社会資本整備を担当する層の厚い地方組織がない」（国土交通省ではインフラを建設、維持・管理する地方整備局という大きな組織がある）ことなどを指摘し、水道行政が厚労省から国交省と環境省に移管される方針について「災害対応などを考えれば、望ましい方向性が示された」との認識を示して、「災害はその時まで待ってくれない。今からでも厚労省と国交省が一体となって水道事業における災害対応能力の強化を図るべき」だと主張しました。

これに岸田首相は、過去の災害発生時においても厚労省では関係機関と連携しながら施設の復旧や応急給水等に対応してきたことなどを説明した上で、「水道整備・管理行政の移管を待つことなく、今後とも国土交通省の知見と現場力を活用し、水道事業における災害対応能力の強化を図っていく」と発言しました。水道行政の移管を通じて、水道が抱える課題に関係省庁が連携して取り組んでいくことが期待されます。

■要望・議論が活発に

水道行政の移管について、実際に水道事業を経営している「水道事業体」と呼ばれる団体は期待と不安の両方を抱いて、状況を見守っています。日本の水道の多くは

広域連携

水道・下水道の施設は誰のものでしょう？

家の敷地の中にあるものを除けば、おおよそ自治体のもので、皆さんの住んでいる自治体が施設の所有者と思って間違いありません。

「水道局」「下水道局」との呼び方がよく使われますが、それぞれの自治体には水道・下水道を担当し、経営している部署があります。

自治体では今、水道・下水道に携わる職員が減っています。人口が減れば得られる料金収入も減り、自治体の上下水道の経営体力が弱っていきます。そこで、広がっているのが広域連携です。

隣同士の自治体で一緒にできる仕事がないか、一緒に上下水道の施設を持つことで管理しなければならない施設を減らせないか、技術力のある職員が複数の自治体を担当できないか、各地で連携が進んでいます。

そして連携が進めば、自治体の仕事を受ける民間企業にもスケールメリットが出ます。

県内自治体が集まり連携策を議論（長野県）

施設の老朽化

2021年10月、和歌山市内の紀の川に架かる水管橋が崩落し、同市内の約6万世帯が断水するという事故が起こりました。

事故のあった和歌山市の水管橋は1975年に整備されたものでした。全国の水道・下水道インフラは、戦後の高度経済成長期から1990年代までに整備されたものが多く、これから各地で老朽化したインフラ施設が急増していきます。

こうした状況の中で、重要となるのがインフラのメンテナンスです。日々の施設の点検はもちろん重要ですが、点検の中で不具合の見落としがないようにするデータ管理や技術サポート、確認しづらい箇所を点検できる技術の開発などが求められています。

そして、古くなった施設を取り替える際に、より耐久性の高い資機材を使うことや維持管理しやすい設計を行うことも重要となります。

技術だけでなく、事務の仕事も大切です。適切に施設更新ができる経営の維持、利用者の声や日々の現場での気付きを共有し、行動できる体制づくりが大切です。

昨年10月に発生した和歌山市の水管橋崩落事故

DX

2021年9月、デジタル庁が発足し、国を挙げたデジタル社会の形成に向けた動きが本格的に動き出しました。水道・下水道も例外ではありません。各地で事業の高度化、効率化に向けたDXの活用が進んでいます。

大規模な都市では、インフラに関する膨大なデータを活用するための取組みが進んでいます。一例としては、老朽化するインフラの状況を施設管理をする中で集めたデータの傾向から解析し、破損等の事故を未然に防止しています。さらに、多くの自治体のデータを融合して全国的に活用する動きや、人工衛星から得られる地形の画像データを活用した漏水調査なども行われています。

水道・下水道がDXを希求する理由の一つには、担い手不足という問題もあります。人口が減る中、水道・下水道に入職する若手は貴重な人材です。今が水道・下水道をより魅力的な業界にしていくための大きな転換点であり、現場をより働きやすい仕事環境とし、全国に張り巡らされた水道・下水道インフラの活用ポテンシャルを高めていくことがDXの推進の中で求められます。

多様な現場でDXが進む

官民連携

日本の上下水道の経営は、ごく一部を除いて自治体が行っています。

この新聞に掲載されている企業は、自治体から施設の設計・建設・管理を任されたり、施設を作るために必要な資機材を製造、供給しています。自治体が持つ公的な役割と民間企業が持つ技術力や生産力、そして地域を問わずに仕事ができる機動力が組み合わさって上下水道事業は成り立っています。

自治体の内部では、人事異動がつきものです。また、近年は職員数も減り、上下水道の専門ノウハウを持つ職員の確保が難しくなってきました。そこで専門的なノウハウに長けた民間企業に業務をまとめて、任せていく動きが急速に進んでいます。

民間企業が担える仕事の幅が広がり、ビジネスチャンスが拡大しているとも言えるでしょう。

上下水道を経営する自治体にとって、民間企業はこれまで以上に重要なパートナーになっています。

宮城県では4月から上工下水一体官民連携運営事業が始動

強靱化

日本においては地震、台風、そして火山の噴火など自然災害と付き合っていくことが不可欠です。東日本大震災や令和元年東日本台風などでも被災の影響は大きく、復旧・復興に係る労力、費用も非常に大きなものです。避けられない自然災害の被害を未然に防ぐ、または被害を受けた場合でも早期に立ち直れる体制を作ることが「強靱化」です。

これは上下水道施設ではとても重要な考えです。災害の時に水道・下水道が使えなくなることは、人命に関わります。

上下水道の管路や建物は地震に強い構造を持つことが特長ですが、古い施設は災害に弱い場合も多くあります。

日本の上下水道施設を災害に強いものに造り変えること、より災害に強い材料や設計方法の研究、または災害が起きて水道、下水道が使えなくなった場合に、すぐに復旧できる技術を開発することなどが水を仕事にする民間企業の重要な仕事になっています。

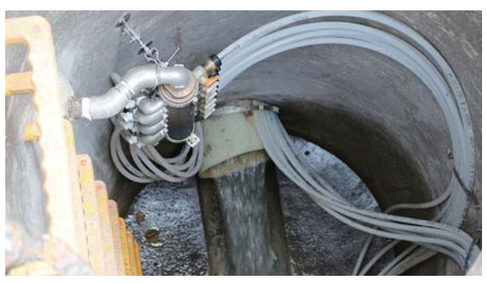
熊本地震で被災した下水道管路

脱炭素

日本全体の電力消費に対して、全国の水道事業者の電力消費は約0・8％（2016年）、下水道事業者の電力消費は約0・7％（2018年度）を占めています。安全な水を作り、各家庭に送り届ける、そして使った水を下水処理場まで送り、自然に戻すために浄化するにはたくさんのエネルギーを使います。

世界的に問題となる温室効果ガス削減の必要性とともに、電力消費は多くの動力費がかかるため、電力消費の削減は水道・下水道の事業経営の側面からも重要な課題として取り組まれてきました。国が定める法律、計画において2050年までのカーボンニュートラルの実現に向けた方針とロードマップが示された中、水道・下水道分野においても取組みの推進が一層求められます。

水を浄化し、送るエネルギーを効率化するだけでなく、そのために必要な資機材の製造や水道・下水道インフラに賦存する水力エネルギーや下水汚泥に含まれる有機物を活用した創エネルギーも重要な施策となります。未来を担う世代にとって、その未来を変える大切な取組みです。



下水管内の下水熱を利用する取組み

上下水道関係企業 2024年度・2023年度採用スケジュール

※本内容は企業へのアンケートを基に作成

企業名	業種区分	募集人数／応募資格	採用スケジュール	会社説明会の予定	情報入手方法	過去3年間の採用実績（人数・出身校など）	学生へのPR
東京水道	上下水道事業者および補完機関、運転管理・維持管理、検針・窓口・サービス、水道管路の設計・積算、施工管理、維持管理	募集人数: 土木職（大卒、高専卒、専門卒）50名程度 設備職（大卒、高専卒、専門卒）30名程度 事務職（大卒）　30名程度 応募資格: （土木系）理工学系の学部・学科を専攻し、卒業見込。または卒業後3年以内 （設備系）電気・機械系の学部・学科を専攻し、卒業見込または卒業後3年以内 （事務職）学部・学科不問で卒業（修了）見込または卒業後3年以内 **【2023年4月入社社員　継続募集】**	3～4月　会社説明会（合同企業説明会及び個別説明会） 5月　選考前イベント（現場見学会など） 6月1日～　選考試験 ※以降、随時選考試験を実施します。	説明会:対面、Webにて随時実施中。マイナビ2024にて説明会予約受付中 インターンシップ:8月第1週及び第4週（各5日間）、11月、12月、令和5年2月予定 〈参加方法〉 説明会:マイナビ2024にて2月以降予約受付予定 インターンシップ:マイナビ2024インターンシップサイトにて申込	当社HPまたはマイナビ2024 ※2023年4月入社はマイナビ2023	2022年度　107名 2021年度　86名 2020年度　99名 学習院大学、神奈川大学、早稲田大学、中央大学、東京農業大学、東海大学、東京都立大学、東洋大学、日本大学、法政大学、明治大学、立教大学、金沢工業大学、東京高専、都立産業技術高専、苫小牧工業高専、八戸工業高専、長岡工業高専、木更津高専　等	令和2年4月1日、東京水道サービス株式会社と株式会社PUCが合併し、東京水道株式会社として、新たな一歩を踏み出しました。当社は、東京都水道局の技術系現場業務及びお客さま窓口やコールセンター（お客さまセンター）の運営等、一社で水道のほぼすべての事業範囲をカバーし、IT事業部門も備えた「日本最大級の水道トータルサービス会社」となりました。当社では、常に働きやすい職場づくりや現場業務の改善に取り組んでおり、ライフワークバランスの実現により、一生涯をかけて安心して仕事ができる環境が整っています。人々の暮らしや都市活動に欠くことのできない水道事業の運営を担い、将来にわたり成長し続ける東京水道株式会社に、是非皆様の応募をお待ちしております。
東京設計事務所	コンサルタント	募集人数:10～15名 応募資格:大学院修了、大学卒	1～2月　学内の業界／企業説明会へ参加 3月～　各支社で説明会を開催 4月～　採用試験	開催する	当社Webサイト、リクナビ2024	3年間で26名（年平均10名程度）。全国の大学および大学院から。	東京設計事務所は創業以来、“社会、環境に貢献し、働きがいのある魅力あふれる企業を持続する” を経営理念として、国内外のお客さまのニーズに誠実に対応してきました。いま、働き方改革が国を挙げて進められています。当社を含むTECグループでは、ノー残業デーを始めとし、有休取得奨励日の設定、早朝勤務の推奨制度などワークライフバランス（WLB）の改善を目指して様々な施策を実施しており、在宅勤務制度の拡充に向けた検討も始めています。近い将来にはこれまでの制度の拡充や他の施策と合わせて残業ゼロを目指したいと考えています。
東京都下水道サービス	上下水道事業者および補完機関、運転管理・維持管理	募集人数: 設備職　10～15名程度 環境検査職　3名程度 土木職　10～15名程度 応募資格: 大学院、四年制大学、高等専門学校（本科・専攻科）、専門学校卒または卒業から3年以内 設備職＝機械・電気系学科を専攻し、翌年3月卒業予定者 環境検査職＝物質工学系学科（化学系、生物系）を専攻し、翌年3月卒業予定者 土木職＝土木系学科を専攻し、翌年3月卒業予定者	8月　インターンシップの実施 1～3月　学校訪問、合同就職説明会への参加、会社見学会 3～5月　会社説明会、選考会の実施	会社説明会:3～5月頃実施 会社見学会:3月頃実施 インターンシップ:8月頃実施 〈参加方法〉 会社HP、マイナビ、高専Link、高専プラス等のWebサイトから予約・申込	当社HP、マイナビ、高専Link、高専プラス等のWebサイト、学校へ配布した求人票	2022年卒　25名 2021年卒　31名 2020年卒　20名 <大学院>千葉大、東海大、日本大、山梨大 <大学>日本大、東京理科大、東京電機大、千葉工業大、工学院大 <短大・高専・専門学校>福島高専、宇部高専、一関高専、東京都立産業技術高専、東京高専、有明高専、函館高専、富山高専、石川高専、高知高専、広島商船高専、群馬高専、長岡高専、小山高専、八戸高専、明石高専、徳山高専、和歌山高専、長野高専、香川高専、秋田高専、木更津高専	東京都下水道サービスは、東京都の政策連携団体です。東京の下水道グループの一員として、下水道サービスの維持向上を目指しています。日々の安心で快適な生活は、下水道が “あたりまえ” に機能し続けることで成り立っています。当社はそんな世の中が期待する “あたりまえ” に応え続けるために、豊富な経験に基づく高い技術力とノウハウで下水道事業に貢献しています。社会に貢献しているという、誇りと信念をもって働けるわが社で、一緒に下水道事業を盛り上げていきませんか？
日本ヒューム	メーカー（管路資機材）	募集人数:6～10名 （文系:5名　理系:5名） 応募資格:大学院修了見込、大学、高専、専門学校（建築、土木、機械、電気）卒業見込	3月から説明会を開始し、4月に入ってから採用試験に入り、6月中に内々定。そして、10月1日に内定式となっております。以後、定員に満たなければ、随時説明会・選考を開催していきます。	説明会、インターンシップの詳細は決定次第、決定次第、当社HP等でご案内します。	当社HPを参照	2022年度　8名（浅野工学専門学校、宇都宮大学、九州工業大学、東海大学、日本大学、酪農学園大学） 2021年度　8名（浅野工学専門学校、金沢工業大学大学院、北九州市立大学、佐賀大学、静岡大学、専修大学、鳥取大学大学院、八戸工業大学、） 2020年度　5名（浅野工学専門学校、中央大学、日本大学、佐賀大学、東京経済大学）	「総合コンクリート主義」を掲げコンクリート二次製品の設計・施工といった全方位のワンストップサービスを提供できる会社です。異常気象によるゲリラ豪雨、大型台風の大雨など、洪水や浸水被害などの雨水対策が求められるなか、大断面、高水圧対応といったニーズに対応した管渠の製造や、ICTを活用した浸水対策施設運用支援システム実用化等社会に貢献しています。当社は今年で創立97年目を迎え、さらなる飛躍を目指していきます。一緒に未来のインフラについて考え、安心・安全で豊かな社会をつくっていきませんか。
日本水工設計	上下水道事業者および補完機関、コンサルタント	募集人数: 技術職（土木設計、建築設計、機械設計、電気設計）　15名程度 営業職（管理系総合職）　若干名 応募資格: 大学・大学院・高等専門学校を卒業 技術職　理系学生対象（土木、建築、機械、電気、その他） 営業職（管理系総合職）　学部学科不問	3月上旬～　企業説明会実施、適性試験実施 3月下旬～　面接実施（複数回）　技術職社員との業界・仕事理解のための座談会実施 4月中旬～　内々定	インターンシップ=冬（1月16～18日）実施予定　随時受付中 〈参加方法〉リクナビインターンシップサイトより申込 説明会=毎年3月以降随時実施 〈参加方法〉マイナビ及びリクナビに求人広告掲載予定、エントリー後に説明会画面より申込	当社HPおよび求人広告（マイナビ・リクナビ）に採用情報を掲載予定 採用連絡先: 03-3534-5511 recruit@n-suiko.co.jp	2022年　8名 2021年　12名 2020年　12名 東北大、長岡技科大、筑波大、茨城大、埼玉大、山梨大、広島大、山口大、九州大、熊本大、宮崎大、東京都立大、東北工業大、東北学院大、前橋工科大、日本大、中央大、法政大、東京都市大、東京理科大、芝浦工業大、東洋大、千葉工業大、名古屋工業大、名城大、大阪工業大、摂南大、近畿大、福岡大、仙台高専　他	日本水工設計は水インフラを通して社会に貢献するコンサルタント会社です。顧客である自治体から上下水道等に関する課題・ニーズをヒアリングし、調査・計画・設計や上下水道事業のマネジメントによって街づくりを支えています。社内ではワークライフバランスのためのノー残業デー実施や有給休暇の取得推進、時差出勤の取り組みなど、今後も社員が働きやすい環境づくりに力を入れていきます。今冬もインターンシップを開催予定ですので、人々の生活を支える仕事で社会に貢献したい方はぜひご参加ください。
フソウ	上下水道事業者および補完機関、建設（全般）、エンジニアリング（上下水道システム全般、プラント、管路）、メーカー（水管橋や大口径異形管等の鋼管製造）、運転管理・維持管理	募集人数:25名	エントリー⇒セミナー（任意）⇒一次面接⇒適性検査⇒二次面接⇒最終面接⇒内定	インターンシップ:2022年7月～2023年2月頃まで実施予定 説明会:2023年3月から随時実施予定	採用HP、マイナビ、あさがくナビ	2023年度　27名（予定） 2022年度　17名 2021年度　17名	水処理施設の設計／施工からオペレーション／メンテナンス、また施設に必要な技術開発や資機材の製造から調達、販売に至るまで一貫して手がける当社。公共性の高い事業に関わることができ、専門性・スキルが身につくのも当社ならではです。また教育・研修制度も充実させており、会社全体を見渡すことのできる人材に成長してほしいとの思いから、約1年間におよぶ新入社員研修では各職種をローテーションし、幅広い視野を身に付けていきます。
前澤工業	メーカー（機械）、運転管理・維持管理	募集人数:15名程度 応募資格:2024年3月卒業見込みの大学院生、大学生、短大生、専門学校生（機械・電気・衛生工学系専攻積極採用） **【2023年4月入社社員　継続募集】**	3月～　合同企業説明会、会社説明会 4月～　選考（筆記試験・適性検査・面接3回） 6月～　内々定 10月　内定式	会社説明会:3月頃より開始予定 〈参加方法〉 マイナビ2024より受付	マイナビ2024、当社採用HP、Web求人情報サイト等 ※2023年4月入社はマイナビ2023	2022年入社　21名 2021年入社　17名 2020年入社　18名	前澤工業は、創業以来80余年にわたり、上下水道用機器・水処理装置のメーカーとして、上下水道分野のインフラ整備に携わってきました。当社の製品は、日常生活で目に触れるものは数多くありませんが、皆さんの「安心・安全な暮らし」を支えています。当社では、社会に関心を持ち、新しいことにチャレンジしていく人材を求めています。ぜひ私たちと一緒に前澤工業の一員として、水インフラを支えていきましょう。
真下建設	建設（全般）	募集人数:10名程度 応募資格:高卒以上 **【2023年4月入社社員　継続募集】**	随時受付	説明会:随時受付中 インターンシップ:8・12月ごろ、随時受付中 〈参加方法〉 リクナビまたは、当社HP もしくは TEL:0495-22-2154 （担当:金井）	当社HP・リクナビ	2022年度　4名（大学卒4名） 2021年度　3名（大学卒1名、高校卒2名） 2020年度　3名（大学卒2名、高校卒1名）	真下建設では、20年以上前から既設下水道管路をはじめとする地下埋設管路のメンテナンスサービスを手掛けており、多種多様な施設の損傷に対応するための様々な技術力を磨いて参りました。当社が行う工法は非開削施工です。工事による廃棄物を最小限に抑える事が出来る環境配慮型工法なので、持続可能な下水道施設を守るために今後も更なるニーズが見込まれる分野です。また当社は、埼玉県が進める『埼玉県版SDGs』を県と共に推進するためのパートナーシップ登録を行っている他に、埼玉県が働きやすい職場環境づくりを認定する「多様な働き方実践企業認定制度」において、最上位のプラチナ区分の認定を受けています。衛生的な生活、水環境を守るために、私たちと一緒にこの仕事に携わってみませんか。

上下水道関係企業 2024年度・2023年度採用スケジュール

※本内容は企業へのアンケートを基に作成

企業名	業種区分	募集人数／応募資格	採用スケジュール	会社説明会の予定	情報入手方法	過去3年間の採用実績（人数・出身校など）	学生へのPR
栗本鐵工所	エンジニアリング（管路）、メーカー（機械、管路資機材）	募集人数: 技術系総合職　20名（予定） 事務系総合職　10名（予定） 応募資格:2024年3月に高専、大学、大学院卒業見込	マイナビ2024より、2023年3月より受付開始 学校推薦（理系のみ）:随時受付。当社人事Gまでご連絡ください	1月に1Dayインターンシップを実施予定（マイナビ2024より応募受付中） 2月以降説明会実施予定 〈参加方法〉 マイナビ2024よりエントリー	マイナビ2024、当社採用HPなど	2022年　23名（入社予定） 2021年　21名 2020年　25名 関西大学、同志社大学、立命館大学、関西学院大学、九州大学、大阪大学、成蹊大学、近畿大学、金沢工業大学、高知工科大学、三重大学、金沢大学、大阪工業大学、鹿児島大学、愛知工業大学、名古屋工業大学、東京工業大学、大阪公立大学工業高等専門学校、東北大学、兵庫県立大学、崇城大学等（過去3年実績より抜粋）	栗本鐵工所は、水道・電気・通信・道路などの「ライフライン」および、自動車・化学・金属・食品・エネルギー業界の「機械・プラント」に関わる、製品と技術を提供しています。幅広い事業と高い技術力で、新たな技術の開発にも力を入れている会社です！ぜひ、自分の仕事が世の中に貢献するこのやりがいを、一緒に感じてみませんか？（年間休日１２５日＋有給・特別休暇と私生活も充実！）
三機工業	建設（全般）、エンジニアリング（上下水道システム全般、プラント）、メーカー（機械）、運転管理・維持管理、建築設備全般のエンジニアリング	募集人数:85名程度 応募資格:2024年3月卒業見込みの大学院生、学部生、高専生、専門学校生、高校生	3月　説明会開始 6月　選考開始 10月　内定	インターンシップ:8月～翌年2月にかけて随時開催予定。 説明会:3月以降随時開催予定 〈参加方法〉 マイナビ・リクナビ・当社マイページから受付	マイナビ・リクナビ・当社マイページよりエントリー	2022年:83名、2021年:95名、2020年:88名 （採用実績校）（大学）愛工大、青学大、秋田大、茨城大、岩手大、宇都宮大、愛媛大、阪大、大工大、大阪電通大、岡山大、岡山理大、香川大、鹿児島大、神奈川大、神奈川工科大、金沢大、金沢工業大、関大、関学大、関東学院大、学習院大、北見工大、九大、九工大、九産大、京大、杏林大、近大、岐阜大、熊本大、熊本県立大、群馬大、慶大、工学院大、高知工科大、神戸大、国学院大、国士舘大、駒大、埼玉大、埼玉工大、佐賀大、芝工大、島根大、下関市立大、首都大学東京、職業能力開発総合大学校、昌大、上智大、成蹊大、成城大、創価大、玉川大、千葉大、千葉工大、中央大、中京大、中部大、筑波大、帝京大、電通大、東海大、東大、東京薬科大、東工大、東京電機大、東京都市大、東京理科大、東北大、東北学院大、東北工大、富山県立大、豊橋技科大、同大、同志社女子大、長岡技科大、名大、名工大、新潟大、日大、阪南大、一橋大、弘前大、広島大、広島工大、広島修道大、広島市立大、フェリス女学院大、福井大、福井工大、福岡大、福岡工大、福島大、藤女子大、文教大、法大、北大、北海道科学大、北海道工業大、前橋工科大、松山大、三重大、武蔵大、室蘭工大、明大、明学大、名城大、山形大、山口大、山梨大、横国大、横市大、立大、立命大、琉球大、龍谷大、和歌山大、早大、諏訪東京理科大ほか （高専）秋田、旭川、阿南、有明、石川、茨城、小山、鹿児島、北九州、岐阜、呉、群馬、高知、津山、東京、長岡、函館、八戸、福井、福島、都城、米子　他	三機工業は三井グループの主要企業の一つとして設備業界を牽引してきたリーディングカンパニーです。創立１００周年に向けて事業を展開しており、浄水や下水道事業といった水関連事業以外にも空調・給排水衛生・電気・情報通信などの建築設備、工場や空港での物流・搬送システム、ごみ処理プラントといった社会インフラの構築を手がけています。将来のエンジニアとなる皆様からのご応募を心よりお待ちしております。
三水コンサルタント	コンサルタント	募集人数: 技術系総合職　10名 事務系総合職　若干名 応募資格:技術系:技術系の学科を専攻し、2024年3月（過去3年を含む）に高等専門学校、専修学校、4年制大学、大学院修士課程を卒業（または修了）見込であること。事務系:学部不問で2024年3月に4年制大学を卒業見込であること。 **【2023年4月入社社員　継続募集】**	会社説明会・会社訪問（筆記試験・適性検査）⇒役員面接⇒選考⇒採用決定 （時期は随時、採用締切日は、一次締切4月30日、二次締切12月31日）	会社説明会、会社訪問は、随時受付 インターンシップは、1Day～2週間（期間は相談可）で随時受付 学校からの紹介、本人からの電話、Eメール等によるエントリー	会社HP、大学へ配布する会社パンフレット等	2022年度:8名（熊本大学、香川大学、大阪工業大学、明星大学、千葉工業大学等） 2021年度:6名（大阪工業大学、明星大学、東北学院大学、大阪経済大学、大分工業高等専門学校等） 2020年度:9名（室蘭工業大学、北見工業大学、大阪工業大学、大阪産業大学、徳島大学等）	三水コンサルタントは昭和49年の設立以来、約50年にわたり上下水道事業を中心に水と環境の建設総合コンサルティングサービスに邁進してきました。次代のニーズを踏まえた総合的視点と知識、ノウハウにより全国の顧客等から高評価を得ています。最近では、海外でのコンサルティング業務に対応すべく「海外室」の新設や、女性エンジニアの活躍の場を広げる職場環境整備、ワークライフバランス向上を目指した「働き方改革」に力を入れています。
水 ing	建設（全般）、メーカー（機械）、運転管理・維持管理	募集人数: 総合職 30名程度（高専・大卒・院了合計） フィールドエンジニア職　50～80名程度（高卒・短大卒・専門卒・高専卒・大卒・大学院了合計） 応募資格: 総合職　学部学科不問 フィールドエンジニア職 学部学科不問 **【2023年4月入社社員　継続募集（フィールドエンジニア職のみ）詳細はマイナビ2023より】**	総合職: 2月～　会社説明会（Web） 3月～　選考 フィールドエンジニア職: （大学・高専・専門学校・短大） 2月～　会社説明会（Web） 4月～　選考 （高校生） 7・8月　職場見学、9月中旬　応募書類提出、選考	総合職:インターンシップを毎月1～2回実施、随時受付 フィールドエンジニア職:12月以降に実施、マイナビインターンシップサイトにて随時受付連絡 〈参加方法〉 総合職:当社Webサイトでマイページ開設の上、応募方法や日程を随時告知 フィールドエンジニア職:マイナビインターンシップサイトにて登録後、応募方法や日程を随時告知	総合職・フィールドエンジニア職ともに当社Webサイト、マイナビ	2022年度　総合職24名、フィールドエンジニア職49名 2021年度　総合職26名、フィールドエンジニア職49名 2020年度　総合職21名、フィールドエンジニア職59名	水ingは、「生命の源である『水』を通じていつまでも社会に貢献し続ける」ことを経営理念とした、水や環境インフラ等の水処理施設の設計・建設から運転管理・運営までをトータルに手掛ける総合水事業会社です。当社の最大の資産は人であるという考えのもと、新入社員研修から始まり、自身のキャリアを見つめるための様々な施策を実施しています。また、社会の変化に柔軟に対応すべく多様な働き方の選択を可能にし、生産性の向上を図るための各種制度を充実させています。フィールドエンジニア職は、全国の水道や下水道等の公共インフラ施設・製薬工場等の民間施設の現場で運転管理を担っています。人々の生活に必要不可欠な『水』。我々はエッセンシャルワーカーとして、責任感と誇りを持って日々業務を遂行しています。
住友重機械エンバイロメント	エンジニアリング（プラント）、メーカー（機械）、運転管理・維持管理	募集人数:若干名 応募資格:高専、大学、大学院卒業見込	2月上旬よりエントリー受付開始 3月上旬より選考開始	説明会・インターンシップ:2～3月にオンラインにて複数回実施 〈参加方法〉 住友重機械工業の採用ページよりマイページに登録後、予約	住友重機械工業の採用HP	2022年度入社　5名（理系5名） 2021年度入社　5名（理系5名） 2020年度入社　5名（理系5名） 東北大学、筑波大学、横浜国立大学、京都大学、九州大学、名古屋大学、山形大学、静岡大学、埼玉大学、立命館大学、明治大学　他	住友重機械エンバイロメントは水処理施設の設計～プラント建設、さらには修繕・運転管理等のサービス事業も展開しており、一気通貫して水処理に携わることができます。働き方改革にも積極的に取り組んでおり、週2回の定時退社日・フレックスタイム制度・在宅勤務制度を導入しています。近年はダイバーシティ化が進み、女性技術者も増えています。是非、皆さまからのご応募をお待ちしております。
大成機工	建設（全般）、エンジニアリング（プラント、管路）メーカー（機械、管路資機材）	募集人数:10名程度 応募資格:2023年3月までに高専、大学、大学院を卒業見込 **【2023年4月入社社員　継続募集】**	3月～　合同企業説明会、会社説明会 4月～　選考（書類選考、筆記選考、面接） 5月～　内々定	3月より説明会実施 〈参加方法〉 マイナビよりエントリー	当社HP、マイナビ	2022年度　7名 2021年度　6名 2020年度　10名	大成機工は創業以来、一貫して上下水道・ガス管路の維持管理に携わり、「耐震補強継手」「不断水工事」などの独自技術を通じて、常に業界をリードしてまいりました。有給休暇に加えて、特別休暇制度（アニバーサリー休暇）やノー残業デーの実施など働き方改革への取り組みを行っております。福利厚生としては、企業型確定拠出年金や若手社員への住宅補助などを導入しており、従業員満足度の向上を図っております。
月島機械	エンジニアリング（上下水道システム全般、プラント）、メーカー（機械）、水処理用機器以外にも、産業用（食品、化学、鉄鋼分野向け）機器も製造	募集人数:30名前後 応募資格:大学、大学院卒業見込	2023年2月以前　各大学の説明会に参加・インターンシップ開催 2023年3月　エントリー受付開始・会社説明会開催 2023年6月　選考開始（個別面接実施）	インターンシップ:2023年2月 説明会:2023年3月 〈参加方法〉 インターンシップ、説明会ともにマイナビ2024から受付予定 インターンシップは対面形式、説明会はオンラインでの開催を予定	コーポレートHP、各大学の求人票、マイナビ、就職四季報、日本水道新聞、日本下水道新聞	2022年　17名 2021年　30名 2020年　29名 北海道大、室蘭工大、北見工大、弘前大、東北大、長岡技科大、群馬大、埼玉大、筑波大、茨城大、宇都宮大、東京都立大、横浜国大、横浜市大、静岡大、名古屋大、京都大、大阪市大、神戸大、早稲田大、中央大、法政大、青山学院大、立教大、成蹊大、武蔵大、芝浦工大、東京農大、東邦大、千葉工大、工学院大、日本大、東洋大、神奈川工科大、大阪工大、摂南大、獨協大、玉川大　等	月島機械は1905年の創業以来100有余年にわたり磨き上げてきた技術を活用して、日常生活に欠かせない水インフラを支えております。「最良の技術をもって産業の発展と環境保全に寄与し、社会に貢献する」という企業理念のもと、省エネルギーや下水汚泥からの創エネルギー技術で地球温暖化防止に取り組んでいます。社員は情熱をもって仕事に取り組み、1年目からプロジェクトメンバーの一員として成長できる環境です。
月島テクノメンテサービス	エンジニアリング（プラント）、運転管理・維持管理、検針・窓口・サービス	募集人数:35～40名程度 応募資格:2024年3月卒業（修了）予定の理工学系学生 **【2023年4月入社社員　継続募集】**	～2月:インターンシップエントリー受付中 3月～:マイナビ2024よりエントリー受付開始 会社説明会⇒選考（書類選考、適性検査、個人面接2回）⇒ 内々定	インターンシップ:1月から実施予定 説明会:3月から随時実施 〈参加方法〉 マイナビ2024よりエントリー後、予約	当社新卒採用サイト、マイナビ2024、学校の求人票/Web求人情報システム ※2023年4月入社はマイナビ2023	2022年　30名 2021年　29名 2020年　27名 北見工業大学、東洋大学、東京電機大学、東京工科大学、東邦大学、日本大学、神奈川工科大学、大阪工業大学、大阪産業大学、公立鳥取環境大学、広島工業大学、佐賀大学、日本工学院専門学校、東京電子専門学校　他	月島テクノメンテサービスは上下水道施設の保守・運転管理から補修・設備工事まで「水のライフサイクル」に関わる総合サービスを全国で展開しています。何よりも「人」を財産と考えている当社では、人材育成に重きを置いており、充実した教育体制のもと、皆さんの入社後のスキルアップを全面的にバックアップ！公共性・地域性が高く、仕事そのものが社会貢献に繋がる当社で、上下水道の発展のため共に挑戦しませんか？

日本水道新聞・日本下水道新聞
電子版 好評配信中!!

水インフラ業界の今を伝える日本水道新聞社から、
日本水道新聞・日本下水道新聞の電子版が配信中!
記事の閲覧はもちろん、過去記事の検索や記者ならではの目線で語られるコラム
「記者足帳」など、ここでしか読めないコンテンツも掲載。
ぜひ、日本水道新聞社の電子版をご活用ください。

日本水道新聞 電子版
- 配信日：毎週火・金曜日 正午（週2回）
- 料金：1ID 3,113円（消費税10%込）／月
- 契約期間：1か月契約 自動更新
- 決済方法：銀行振込のみ
- その他：1契約で複数IDの申込が可能

日本下水道新聞 電子版
- 配信日：毎週木曜日 正午（週1回）
- 料金：1ID 1,980円（消費税10%込）／月
- 契約期間：1か月契約 自動更新
- 決済方法：銀行振込のみ
- その他：1契約で複数IDの申込が可能

日本水道新聞・日本下水道新聞
電子版の特長

- デバイスを選ばず、いつでもどこでも閲覧可能！ ※同時接続可能な端末は2デバイスまでとなります。
- バックナンバー閲覧、過去記事の検索もOK! ※当初は、令和2年10月1日分より検索が可能となります。
- 気になった記事は、マイクリップへ保存！
- 新聞紙面そのままでの閲覧も可能！ ※PDFデータでの閲覧となります。
- 記者足帳！ 記者目線で綴る「記者足帳」 ※週1回、毎週金曜日更新 会員のみ閲覧可能
- tech 日本水道新聞社 × 水インフラに関わる 人 現場 技術 無料公開中 水techはこちらから

お申込み／お問い合わせ　当社電子版サイトより、お申込みいただけます。　URL：https://www.suido-gesuido-media.jp
株式会社日本水道新聞社　総務部　Tel：03-3264-6721　電子メール：media@suido-gesuido.co.jp
（お申込みサイト）

※本内容は企業へのアンケートを基に作成

上下水道関係企業 2024年度・2023年度採用スケジュール

企業名	業種区分	募集人数／応募資格	採用スケジュール	会社説明会の予定	情報入手方法	過去3年間の採用実績（人数・出身校など）	学生へのPR
足立建設工業	建設（管路）、運転管理・維持管理	募集人数:4名以上 応募資格:高卒以上 【2023年4月入社社員　継続募集】	会社説明会⇒書類選考⇒採用面接（1～2回）＋適正検査⇒内々定	会社説明会:3月から随時受付中 インターンシップ:3月・8月に開催 参加方法:電話・メール・マイナビよりお申し込みください。 （TEL　03-3899-0121／Eメール　recruit@adachi-tokyo.co.jp）	当社ＨＰ／マイナビ2023	2022年度　4名 （明治学院大学・拓殖大学） 2021年度　5名（日本大学・拓殖大学） 2020年度　3名（日本大学など）	創業108年目の老舗企業です。上下水道工事を通じて社会貢献をしています。財務基盤が強固で、転勤がなく、長く安定して働けます。積極的な技術開発を行っており、当社が開発した『SPR工法』は「大河内記念賞」ほか数々の受賞実績があります。また4年前より働き方改革にも着手し、働き過ぎ防止策として残業時間の圧縮（48%減）や年間有給休暇5日以上の取得等を取り組んでおります。当社では「誠実な施工」「安全な施工」をモットーに社長以下「誰に対しても胸を張れる仕事を！」と日々技術力向上に励んでいます。
安部日鋼工業	建設（全般）、プレストレストコンクリート（PC）構造物（配水池・橋梁・建築・まくらぎ）の設計・施工、PC構造物・鉄筋コンクリート（RC）構造物の耐震補強・補修・維持修繕の設計・施工	募集人数: 20名前後（施工管理、製造管理、営業、事務等） 応募資格:不問 【2023年4月入社社員　継続募集】	・毎年10月より、応募受付開始（2023年卒業生の求人募集受付中） ・応募書類受領後、一次試験を実施（最寄りの支店、本社にて） ・合格者は役員面接（岐阜本社にて）により合否を決定 （一次試験の結果により、役員面接を待たず内々定の可能性あり）	会社説明会・インターンシップ:随時受付中、申込に応じて実施、一人ずつ個別対応可能。2・3月にインターンシップを実施。職場や施工現場の見学等も随時実施。Webシステムまたは対面による会社説明、質疑応答を実施。	当社HP、就職情報サイト（マイナビ、キャリタスUC、求人受付NAVI）等	2022年4月　20名 （大学卒15名、高専卒1名、高校卒4名） 2021年4月　18名 （大学卒13名、高専卒1名、高校卒4名） 2020年4月　19名 （大学院了3名、大学卒12名、高専卒2名、高校卒2名） 岐阜大学、鹿児島大学、秋田大学、東北学院大学、千葉工業大学、大阪工業大学、金城学院大学　他	日本初のＰＣ（プレストレストコンクリート）製タンクを手がけてから改良を重ね、近年のICTも活用し、大規模な災害の中で「水を守る」ことのできるタンクを日本全国で建設している会社です。すべての社員がその能力を十分に発揮できるようにするため行動計画を策定し、本拠地制度と時間単位有給休暇取得制度の導入、現場でのiPad活用促進等、ワークライフバランスの実現に向け積極的に取り組んでいます。一緒に技術を繋いでいきましょう！
ヴェオリア・ジェネッツ	上下水道事業者および補完機関、建設（全般）、エンジニアリング（プラント）、メーカー（機械）、運転管理・維持管理、検針・窓口・サービス、その他（水道料金システム開発・保守、漏水調査、水質検査等）	募集人数:15～20名程度 応募資格:2024年3月卒業見込みの大学院生、学部生、高専生、専門学生、高校生の方 ■技術系:土木（都市環境工学）・機械・電気・化学・生物・農学・建築・情報工学・資源・地球環境学　専攻の方 その他理系専攻の方 ■事務系:全学部・全学科 【2023年4月入社社員　継続募集】	8～9月:夏季インターンシップの開催（5Days） 12～2月:冬季インターンシップの開催（1Day、2Days） 翌年3月より会社説明会を開始し順次選考、内々定 10月1日　内定 ※高校生のみ9月以降に選考開始	会社説明会: 3月以降より順次 参加方法:マイナビ2023／2024よりエントリー、もしくは当社採用アドレス<JP.HRS.VWJ.RECR.ALL.GROUPS@veolia.com>へ直接メールにて連絡	就職情報サイト（マイナビ2023、2024）、当社Webサイト（https://www.veolia.jp/ja/recruit/top）	2022年入社　10名 2021年入社　11名 2020年入社　12名 東京大学、東京工業大学、京都大学、大阪大学、筑波大学、山梨大学、慶應義塾大学、早稲田大学、上智大学、中央大学、立命館大学、東京農業大学、山梨大学、宮崎大学、各高専、専門学校　他	ヴェオリア・ジェネッツは、総合環境サービス会社として水・廃棄物処理・エネルギーの3事業を行っており、上下水道事業については料金徴収業務や施設の施工管理から運転管理まで170カ所以上の自治体から業務を受託しています。社員個々人の多様性を活かし、誰もが自身の能力を存分に発揮して活き活きと働ける職場環境づくりを目指しています。人々の当たり前の生活を支える社会インフラの仕事に興味のある方、ご応募お待ちしております！
NJS	コンサルタント	募集人数: 26～30名（技術系30名程度、事務系若干名） 応募資格: 学部卒または大学院卒（土木、建設、都市工学、衛生工学、環境工学、生物工学、建築、機械、電気・電子）	会社説明会（3月以降）参加、エントリーシート提出、適正検査の受験を経て面接を概ね3回実施。 面接は、一次面接はオンライン、二次面接および最終面接は対面で実施。	1Day仕事体験を2022年8月より随時開催。 会社説明会はオンラインにて2023年3月より適時開催予定。 〈参加方法〉 リクナビ、マイナビで応募受付中	マイナビ等の採用ナビサイト、就職四季報等のリクルート向け雑誌・媒体、当社HP等	2022年4月　24名 （北海道大、長岡技術科学大、日本大、千葉工業大、東邦大、東洋大、東京農工大、東京理科大、東京都立大、金沢大、静岡大、名古屋工大、関西大、龍谷大、摂南大、立命館大、広島大、愛媛大、北九州市大、九州大） 2021年4月　30名 （北海道大、岩手大、福島大、群馬大、筑波大、東京都立大、長岡技術科学大、信州大、豊橋技術科学大、鳥取大、山口大、東京理科大、千葉工業大、法政大、東京都市大、東洋大、工学院大、東邦大、東京農業大、関西大） 2020年4月　17名 （埼玉大、静岡大、和歌山大、信州大、大阪市立大、広島大、山口大、千葉工業大、明治大、東洋大、日本大、中央大、東京農業大、名古屋工業大、龍谷大、近畿大）	・人材育成に力を入れており、キャリアステップに合わせた様々な社内研修、資格取得支援が充実しています。また、トレーナー・トレーニー制度（OJT）を設け、早く会社と仕事に馴染める環境つくりに取り組んでいます。 ・健康経営に注力し、ヘルスチェック機器の配布や、禁煙外来補助等を行っています（くるみんマーク・健康優良法人認定取得済み）。 ・奨学金返済負担の軽減のため、奨学金返済に関する補助制度があります。
荏原実業	建設（上下水道関連水処理施設）、エンジニアリング（上下水道システム全般、プラント）、メーカー（機械、電気、計測機器、脱臭剤）	募集人数:20名程度（営業・施工管理・設計技術・研究開発・事務） 応募資格:全学部全学科　四年制大学卒業（高専生は専攻科）以上 【2023年4月入社社員　継続募集（機械・電気・建築系学科卒の技術系のみ）】	8月および1月頃　インターンシップ/仕事体験 3月頃～　選考開始（会社説明会・ES提出・適性検査・面接・内々定通知） 10月～　内定通知	1～2月頃　仕事体験＋会社説明会 3月頃～　会社説明会（随時実施） 〈参加方法〉 マイナビからエントリー	弊社HP（https://www.ejk.co.jp/）・マイナビ	2022年　15名 2021年　21名 2020年　7名 金沢大、北九州市立大、東京海洋大、長岡技術科学大、横浜市立大、青山学院大、大阪産業大、神奈川大、北里大学、京都教育大、近畿大、工学院大、専修大、千葉工業大、東海大、東京工科大、東京工芸大、東京電機大、東京農業大、東邦大、東洋大、日本大、法政大、明治大、立命館大	荏原実業は「水と空気」をテーマに環境ビジネスと社会インフラに携わります。メーカー・プラントエンジニアリング・商社の3つの事業軸を持ち、上下水道や民間工場、商業施設、水産施設や公園の噴水まで官民両方の案件を手掛け、人々の豊かな生活と快適な未来を創ります。1つの案件に最初から最後まで携わる「一気通貫」の働き方も特徴の1つ。お客様に近いところでやりがいを感じながら着実に成長できる環境です。また、各種休暇制度、会社独自の保険制度など安定して長く働くことができる働きやすさも魅力です。トータル環境ソリューションカンパニーを目指して、世の中に必要とされるサービスを提供し続ける当社。その一員としてあなたも一緒に働きませんか？
オリジナル設計	コンサルタント	募集人数:10数名（技術職採用） 応募資格:理工系学部に所属、2024年3月卒業見込	夏から冬にかけて、主要都市で1Day仕事体験（インターンシップ）を開催し、企業理解を深めていただく。 3月に入ると会社説明会を実施するとともに応募の受付を開始。その後応募に応じて順次採用選考を実施。	インターンシップ（1Day仕事体験）は夏から冬にかけて、会社説明会は3月に、それぞれ主要都市で対面にて実施（一部オンラインあり）。一部大学では学内で企業説明会を開催。当社採用情報サイトまたはマイナビ2024から申込。大学で開催される説明会については大学で案内された方法で申込。	当社採用情報サイト（https://www.oec-solution.co.jp/6recruit/） またはマイナビ2024	2022年　13名 2021年　15名 2020年　13名 東北学院大学、宮城大学、秋田大学、秋田県立大学、宇都宮大学、千葉工業大学、東京都立大学、東京都市大学、東洋大学、日本大学、長岡技術科学大学、金沢大学、富山県立大学、滋賀県立大学、関西大学、大阪工業大学、摂南大学、鳥取大学、徳島大学、苫小牧工業高等専門学校、秋田工業高等専門学校、岐阜工業高等専門学校、石川工業高等専門学校、和歌山工業高等専門学校 他	オリジナル設計は上下水道などの水インフラを支える建設コンサルタントです。当社では、日々の市民生活を支えているという社会的使命をやりがいとするとともに、時差出勤制度や在宅勤務制度の導入、ノートPCと無線LAN整備によるフリーアドレス化など「フレキシブルワーク」（柔軟性のある働き方）を進めています。また従業員の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に実践している企業として「健康経営優良法人」に認定されるなど「人財」を重視した「ウェルビーイング経営」を行っています。
極東技工コンサルタント	コンサルタント	募集人数: 技術職7名（土木・建築・機械・電気）、営業職3名 応募資格: 【技術職】高専卒以上（土木工学系、建築工学系、機械工学系、電気工学系）、【営業職】大卒以上（学部・学科不問） 【2023年4月入社社員　継続募集】	3～11月:会社説明会および採用選考（筆記試験、面接試験）の実施 10月1日:内定式	会社説明会:3月～11月末まで毎月開催 インターンシップ（1Day業務体験）:6月～2月末まで毎月開催 〈参加方法〉 マイナビからエントリー	マイナビから当社のページをご確認ください	2022年度　2名（技術職1名、営業職1名） 2021年度　6名（技術職5名、営業職1名） 2020年度　4名（技術職1名、営業職3名） 京都橘大学、東京農業大学、関西大学、大阪工業大学、岡山商科大学、千葉工業大学、福岡大学、立命館大学、大阪電気通信大学、龍谷大学	「水＆環境の総合コンサルタント」として、上下水道を中心とした社会インフラの整備を行い、地域住民の安心・安全な生活や環境保全に貢献しています。発注元は100%官公庁のため、安定性の高い企業です。社員を財産と考える人“財”育成として、資格取得支援や社内勉強会、女性社員会議を開催するなど、社員一人ひとりに成長と活躍の場があります。また、ノー残業デー、ノー残業マンスといった独自の制度を取り入れ、社員の働きやすさを追求しています。
クリアウォーターOSAKA	上下水道事業者および補完機関、コンサルタント、運転管理・維持管理、下水道施設の維持管理（運転管理、保守点検、計画設計、施工管理、水質管理、国際協力）、自治体ニーズを踏まえたアドバイザリー等	募集人数: 総合職（技術系）10名 総合職（事務系）若干名 専門職10名 応募資格: 総合職=2023年3月末までに大学院、大学、高専などを卒業又は卒業見込みの方。 （ただし誕生日が1993年4月2日以降、卒業後概ね3年以内の方）学部、学科等の要件なし 専門職=2023年3月末までに高等学校を卒業見込みの方（指定校求人） 【2023年4月入社社員　継続募集】	【2023年度採用の例】 （総合職） 募集期間:2022年5月下旬～6月中旬 1次試験:2022年6月下旬 1次試験合格発表:2022年7月上旬 最終合格発表:2022年7月中旬 （専門職） 募集期間:2022年9月上旬 採用試験:2022年9月中旬 合格発表:2022年9月下旬	実施する方向で検討中	総合職:当社HP（2023年度採用）採用実績のある学校等に直接案内 専門職:指定校にのみ求人票を送付（2022年度採用） ※令和5年4月入社社員については当社HPを参照	2022年度採用 総合職:　9名　専門職:9名 2021年度採用 総合職:13名　専門職:8名 2020年度採用 総合職:　6名　専門職:6名	クリアウォーターOSAKAは大阪市100%出資の外郭団体です。社員の有給休暇取得率が高く、職場の一体感を大切にする企業風土があります。充実した給与体系を持ち、さらには産休や育休も職場のサポートが充実しており、安心して取得ができます。また、育児時間の活用（1.5ｈ）より働く女性をサポートします。若者がのびのびと活躍できる、そのような会社風土が特徴です。

＼私たちは上下水道インフラの「ココ」で仕事をしています／

業務範囲 ＼ 企業名（順不同）	業種区分														水道									下水道（汚水）								下水道（雨水）					
	上下水道事業補完機関	建設（全般）	建設（特定分野）	コンサルタント	エンジニアリング（上下水道システム全般）	エンジニアリング（プラント）	エンジニアリング（管路）	メーカー（機械）	メーカー（電気）	メーカー（管路資機材）	メーカー（その他）	運転管理・維持管理	検針・窓口・サービス	その他	事業経営および事業経営に関する計画検討	法律、規制および法律・規制に準じる制度検討	取水	浄水	配水	給水	メーター	宅内（家庭内での水利用）	料金	事業経営および事業経営に関する計画検討	法律、規制および法律・規制に準じる制度検討	宅内（排水設備、浄化槽）	下水道管路	下水処理	汚泥処理	汚泥再利用	使用料	法律、規制および法律・規制に準じる制度検討	雨水事業に関連する計画検討	宅内（雨水ます、貯留浸透槽など）	雨水管路	雨水ポンプ	雨水浄化処理
N J S				●											●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
オリジナル設計				●											●		●	●	●	●				●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
極東技工コンサルタント				●												●	●	●	●	●			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
三水コンサルタント				●											●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
東京設計事務所				●											●	●	●	●	●	●	●		●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
日本水工設計	●			●											●	●	●	●	●	●			●	●	●		●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●
クリアウォーターOSAKA *1	●			●								●		● *2										●	●		●	●	●	●		●	●		●	●	●
東京都下水道サービス	●											●														●	●	●	●	●				●	●	●	
東京水道	●											●	●	● *3			●	●	●	●	●		●								●							
安部日鋼工業		● *4															● *5	● *5	● *6									● *7	● *8								● *9
ヴェオリア・ジェネッツ *10	●	●				●		●				●	●	● *11		●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●			●	●	●	●
荏原実業			● *12		●	●		●	●		● *13						●	●	●	●						●		●	●					●	●	●	●
三機工業		●			●	●		●				●		● *14			●	●	●	●		●				●		●	●	●				●		●	●
水ing		●						●				●						●										●	●	●						●	●
住友重機械エンバイロメント						●		●				●					●	●										●	●	●							●
月島機械 *15					●	●		●								●	●	●	●	●					●			●	●	●						●	●
月島テクノメンテサービス						●						●	●			●	●	●	●	●	●				●			●	●	●						●	●
フソウ	●	●			●	●	●				● *16	●				●	●	●	●	●					●	●	●	●	●	●			●	●	●	●	●
前澤工業								●				●					●	●	●							●	●	●	●						●	●	●
栗本鐵工所							●	●		●								●	●							●								●		
大成機工		●				●	●	●		●							●	●	●	●						●										
日本ヒューム										●																●								●		
足立建設工業			● *17									●							●	●					●	●							●	●		
真下建設		●																								●								●		

*1 大阪市内一円下水道施設等維持管理業務、河内長野市下水道施設包括的維持管理業務等　*2 下水道施設の維持管理（運転管理、保守点検、計画設計、施工管理、水質管理、国際協力）、自治体ニーズを踏まえたアドバイザリー等　*3 水道管路の設計・積算、施工管理、維持管理　*4 プレストレストコンクリート（PC）構造物（配水池・橋梁・建築・まくらぎ）の設計・施工、PC構造物・鉄筋コンクリート（RC）構造物の耐震補強・補修・維持修繕の設計・施工　*5（施工事例）RC構造物の耐震補強・補修　*6（施工事例）PC配水池の設計・施工（新設・更新・耐震補強・維持補修）　*7（施工事例）OD処理槽　*8（施工事例）卵形消化槽　*9（施工事例）雨水貯留槽　*10 包括業務からコンセッションまで対応可能です　*11 水道料金システム開発・保守、漏水調査、水質検査等　*12 上下水道関連水処理施設　*13 計測機器・脱臭剤　*14 建築設備全般のエンジニアリング　*15 水処理用機器以外にも、産業用（食品、化学、鉄鋼分野向け）機器も製造しています　*16 水管橋や大口径異形管等の鋼管製造　*17 管路

就職活動応援特集

学識者に聞く
水業界と学生をつなぐ視点

地域に根差し人々の生活を支える〝水業界〟。上下水道界の第一線で活躍し、現役の学生とも近い距離で接する機会が多い学識の先生方の視点で見る水業界の魅力について語ってもらった。

日本大学生産工学部土木工学科教授
森田 弘昭氏
効率的な業務運営のため

■土木系学生の進路
――日本大学生産工学部の就職状況は。

土木工学科の学生数は1学年に200人ほどです。そのうち、おおむね半分の学生はゼネコンに就職します。残りの就職先はコンサルタントと公務員にそれぞれ15％程度、プラントメーカー等の民間企業に20％程度。就職割合は年度によって変動しますが、基本的に土木工学科は超売り手市場で、就職希望の学生の就職率は100％です。

新型コロナウイルスがまん延し始めた当初、当学科では安定を求め公務員志望の学生が増えると予測していました。しかし、2021年度に就職した学生の公務員率は10％を下回るくらいで、例年よりも低かったのです。実態を見てみると、自治体側が求職者数を絞っていたわけでもなく、定員割れする自治体もあったようなので、この動きは当科の学生だけでなく、他大学の学生にもあったのだろうと推察できます。後になって振り返ると、民間企業の方が早期から危機感を持ち採用活動を行い、オンラインでの説明会やインターンシップへの切り替えが早かった気がします。オンラインの活用は、学生の就職活動の裾野を広げ、さまざまな会社に触れる機会の創出となり、結果的に学生が民間企業を選択した要因につながっているのかもしれません。

■水環境を守る実務者
――学生の水環境に関する認知度と、先生の考える水業界の魅力とは。

私の講義「水環境浄化システム」において、学生から提出されるレポートには「水道・下水道などのインフラ技術がすごく進んでいることが分かりました」等の感想があります。今年に限って言うと、受講者約100人のうち、事前に上下水道をある程度理解して受講していると感じたのは10％程度。残念ながら、初めから水環境に上下水道が関わっていることを知っている学生は少ないようです。講義内容は以前に私が在職していた国土交通省、環境省、岡山県、熊本市などの行政経験と、建設省、土木研究所や日本下水道事業団技術開発部などでの研究開発経験（実務経験）を踏まえて、大学で学ぶ水環境の基礎的な知識が行政や研究開発の現場でどのように活用されているのかをイメージしやすい構成にしています。

ほかにも、学生は建設・上下水道業界や仕事についての情報をほとんど持っていないので、実社会の雰囲気を少しでも体験してもらうために現役の社会人による講義も多く取り入れています。そのため、上下水道業界に進む当学科の学生は技術のハイテクさに驚き、興味を持つことで、自分もやってみたいと業界の門を叩く素直な子たちが多いです。教育の効果を感じて嬉しい反面、講義内容を誠実に検討していく重責も感じています。

上下水道業界の魅力を環境の切り口で考えてみると、私は環境に大きな負の影響を与えているものは〝水の汚染〟だと思っています。同時に、汚れた川や湖をきれいにできるのは下水道の力があってこそ。下水道事業は生活排水などの汚水を下水処理場できれいする、水環境のきめ細かいマネジメントとともに保全するための実務を担っています。汚水がきれいになって、川を流れていく。臭気を放っていた河川の水がきれいになっていく。自分がきれいな水環境に貢献していることを体現できるから、やりがいも分かりやすい。行政が環境基準を定めることも、もちろん重要ですがそれはあくまで間接的なものです。「この川をきれいにしているのは自分だ」と胸を張って言える仕事だと思いますし、興味を持つ学生にはそこをポイントに勧めます。

■文理融合の教育を
――業界に人材を呼び込む際、今後求められる視点とは。

当学科では高い技術水準を保ちながら、安定的に続けていく手段を考えられる人材育成に力を入れています。そのため、文系理系を問わない横断的な知識習得のためのカリキュラムを導入し、文理融合を進めています。従来の土木工学の専門科目に加えて構造物建設に係る費用や調査に要する費用の積算について、実例を基に演習方式で積算や入札・契約方式を教え始めるなど、文系学生が馴染みやすく能力を発揮しやすい分野の科目の充実を図っている段階です。また、業界の人手不足という深刻な課題解決に向けて、大学には学生時代に業界の貴重な経験や基礎データに触れることや実務を疑似体験できるインターンシップ、実機械によるデモ施工などの現場を知る機会をつくる必要があると思っています。これらの取組みが将来、業界全体を見通す際の手掛かりとなり、社会に出てから全体の解決策の実行をマネジメントできる力を育てるのに有力な手段だと考えているからです。

土木インフラの多くが概成している中、今後は現在のサービス水準をいかに維持していくかが重視されます。メンテナンスをする際、どうしても技術者は技術水準の高さを求めてしまいます。一方では必要なことですが、安定的な運営をしていくには限られた予算でいかに施設を運営していくか、という経営の視点も重要です。業界にももっと、マネジメントや経営の知識を持つ人が増えてほしいところです。

また、業界内の深刻な人手不足課題の解決には産官学の連携も欠かせません。われわれ大学教員は引き続き、効率的な業務運営のできる人材の育成・輩出を意識して業界のさらなる発展に貢献していきたいです。

――ありがとうございました。

近畿大学経営学部教授
浦上 拓也氏
水業界の産官学の連携を

■文系学部における関心の高まり
――近畿大学経営学部の学生の進路傾向は。

卒業生の進路・就職先は、卸売・小売業やサービス業を中心に、金融・保険業等が多くを占めています。昨今、終身雇用が崩れつつあると言われているものの、未だ大手企業を志望する学生が多い印象ですね。水業界に絞ってみると、私のゼミで水道をテーマに卒業研究をした後、そのまま業界に進んだ学生は、これまでいなかった気がします。しかし最近では、水業界に関心を持った学生がゼミを問わずに相談に来るなど、水業界に関心を持つ学生も増えてきた印象です。正直なところ、どういうきっかけで増えているのかは分かりませんが、私の講義がきっかけの一つになっているならば有難いことです。なぜ、私のゼミではないのかと歯痒さも感じますが、ゼミに限らず大学2年生後期という早いタイミングで将来を見通した選択をすることはなかなか難しいことだろうと思います。業界を問わずにですが、学生が志望する進路に進めるよう一生懸命サポートをしているところです。

■過渡期を切り拓いていく
――浦上教授が感じる業界の魅力とは。

上下水道は、生活を営む上で欠かせない重要なインフラです。きらびやかではありませんが、知れば知るほど面白い世界だと思います。一番の魅力は、業界に携わる中で、自分自身の生きがいや社会に貢献している実感を直接的に得られることですね。

水業界は、これまで普及拡大の時代を駆け抜けてきましたが、これからは市町村の枠を越え、人口減少や経済の縮小に備えた効率的なシステムの再構築が不可欠な時代に突入します。われわれは現在、その過渡期における最初の入り口に立っており、広域化・共同化や老朽化対策などにおける俯瞰的なマネジメント能力に加え、脱炭素社会への実現に向けた創造力も求められています。非常に難しい局面ではあるものの、やりがいは大いにあるのではないでしょうか。

また、上下水道は世界全体で興味関心・課題意識を持ちながら熱心に研究をしている業界です。例えば私が客員研究員として在住していたイギリスを例に挙げると、上下水道に関する政策に対して産官学が活発に議論を交わしながら、業界全体がより高みを目指す雰囲気を感じられます。

日本でも近年、流域治水や官民連携など、さまざまな組織が一体となって業界を推し進める流れに変わりはじめました。ぜひとも、これから水業界に飛び込む学生には、枠組みを越えた積極的な情報交換や議論をしてほしいと思います。

■在住地域の動向と学習経験の差
――業界の認知度を高めるためには。

学生の業界に対する認知度は、まだまだ低いように感じます。認知度を高めるための具体的な解決策として、自分の周りの上下水道事業の動向把握の促進よりも、学習の場がカギになるのではないでしょうか。

今年5～7月にかけて岐阜大学教育学部社会科教育講座の原田峻平准教授を中心に行われた意識調査「水道事業の民間参入に対する住民理解促進のための研究」において、上下水道事業で大きな動きのあった地域と学習の場を持っている地域での認知度を比較しました。

調査は、岐阜県の大学を比較対象に、コンセッション導入地域である宮城県の大学、講義内で学習（紹介のみ）する東京都の大学、講義内で学習（詳細解説）する大阪府の大学と四つの大学に在籍する学生に協力してもらいました。質問事項には、コンセッションの意味を理解しているかどうか、人材不足や老朽化、財源不足のそれぞれの経営課題を認知しているかどうか等を設けました。このうち、コンセッションの項目を例に挙げると、宮城県上下水一体官民連携運営事業（みやぎ型管理運営方式）の事例を知っていると答えた学生は、岐阜県で2％、宮城県で4％、東京都で8％、大阪府で32％と、学習の場を持つ学生の方が水業界への認知度が顕著に高いというデータが示されました。

われわれ大学だけでなく、自治体や企業も含めた水業界の産官学で、こうした学習の機会を増やす努力をしていくべきでしょう。

■住民への理解促進の機会を
――人材確保に向けて業界に期待することは。

上下水道業界は、将来的な厳しい状況に備えてプレゼンスを高めていかなければなりません。すでに、人口減少に伴う水道料金・下水道使用料の改定等で、住民から説明を求められる場面が多くなってきました。このような状況の中、適切な事業方針へと舵を切るためには、住民自身が上下水道の役割や歴史、業界が抱える課題等を理解しているかどうかが重要となります。理解してもらうためには、広報活動はもちろんのこと、繰り返しになりますが、学習の場は欠かせません。

今年度の秋学期から、近畿大学経営学部と包括連携協定を締結している八尾市下水道部の職員が経営学部の専門科目を担当しています。講義では、私が下水道の歴史や制度の講義をした後、八尾市の下水道が抱える課題についてディスカッションを行います。その後、学生たちには、期末レポートで4コマ漫画「ヤッタくんの『なぜ？なに？』下水道劇場」のアイデアを考えてもらうこととしています。八尾市では下水道広報大使「ヤッタくん」を活用した4コマ漫画をホームページで連載しており、良いアイデアは実際に4コマ漫画として制作し、ホームページへの掲載を予定しています。

これは一例にすぎませんが、さまざまな組織が一体となって住民への理解促進の機会を設けることで、業界の人材確保を含めた課題解決の糸口につながることを期待します。

――ありがとうございました。